

令和4年度
県民アンケート調査
報告書

<概要版>

令和4年12月

奈良県

—目次—

第1章 調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 調査票の配布・回収の状況	1
第2章 調査結果の分析	3
1. 県民の生活全般について	3
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	7
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	8
1-6 奈良県の住みやすさの評価	9
1-7 将来の奈良県での定住意向	10
1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由	11
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について（問12 5段階ポイント評価）	13
3. 県の取組・県内での改善状況（問11 5段階ポイント評価）	21
4～11. 県民の生活に関する意識やニーズについて	23
4. 安全・安心の確保【賑わう「都」をつくる】	23
5. 景観・環境の保全【愉しむ「都」をつくる】	25
6. 暮らしやすいまちづくり【愉しむ「都」をつくる】	27
7. 文化活動【智慧の「都」をつくる】	29
8. エネルギー関連【豊かな「都」をつくる】	32
9. 運動の状況【健やかな「都」をつくる】	34
10. 子育て【愉しむ「都」をつくる】	36
11. 安全・安心の確保	37
12. 回答者に関すること	40

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「安全・安心の確保」や「景観・環境の保全」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県の取組・県内の改善状況についての評価を5段階で問う項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「安全・安心の確保」や「景観・環境の保全」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3. 調査の設計

- ◇調査地域 奈良県全域
- ◇調査対象 県内在住の満20歳以上の男女・個人
- ◇調査標本数 7,000人
- ◇調査抽出法 層化二段無作為抽出法
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収・オンライン回答フォームによる回答受付
- ◇調査時期 令和4年6月4日(土)～6月23日(木)

4. 調査票の配布・回収の状況

- ◇配布件数 7,000件
- ◇有効回答数(率) 3,331件(47.6%)

■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯(うち「未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯)の回答者	132	4.0%
独身	30～64歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯(「うち未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯)の回答者	448	13.4%
夫婦	20～64歳で、「夫婦のみの世帯」(うち子どもがいない世帯)の回答者	326	9.8%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	251	7.5%
教育期前期	小・中学生、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者	527	15.8%
教育期後期	専門学校生・短大生・予備校生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	280	8.4%
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	157	4.7%
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	615	18.5%
非該当又は無回答		822	24.7%
合計※注		3,558	-
有効回答数		3,331	100.0%

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(3,331件)と一致しない。

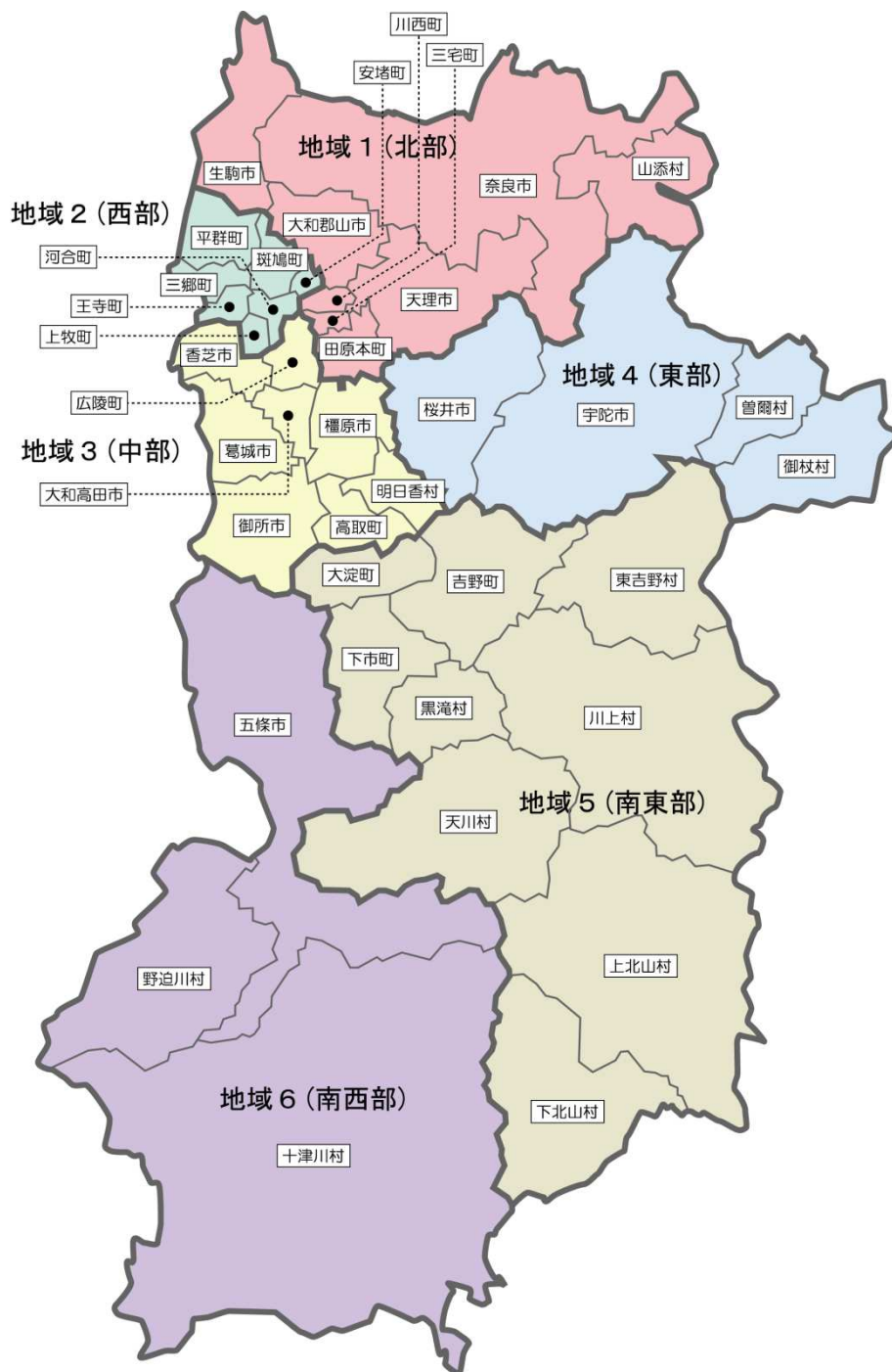
■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民(奈良県にずっと住んでいる人)	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,764	53.0%
新住民(奈良県に新しくきた人)	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,406	42.2%
無回答		161	4.8%
合計		3,331	100.0%

■奈良での就労区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
奈良県内で働いている人	就労場所が奈良県内の回答者	1,504	45.2%
奈良県外で働いている人	就労場所が奈良県外の回答者	452	13.6%
非該当又は無回答		1,375	41.3%
合計		3,331	100.0%

地域の区分



区分名	該当市町村名	有効回答数	構成比
地域1(北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,622	48.7%
地域2(西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	317	9.5%
地域3(中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	832	25.0%
地域4(東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	238	7.1%
地域5(南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	202	6.1%
地域6(南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	120	3.6%
合 計		3,331	100.0%

第2章 調査結果の分析

1. 県民の生活全般について

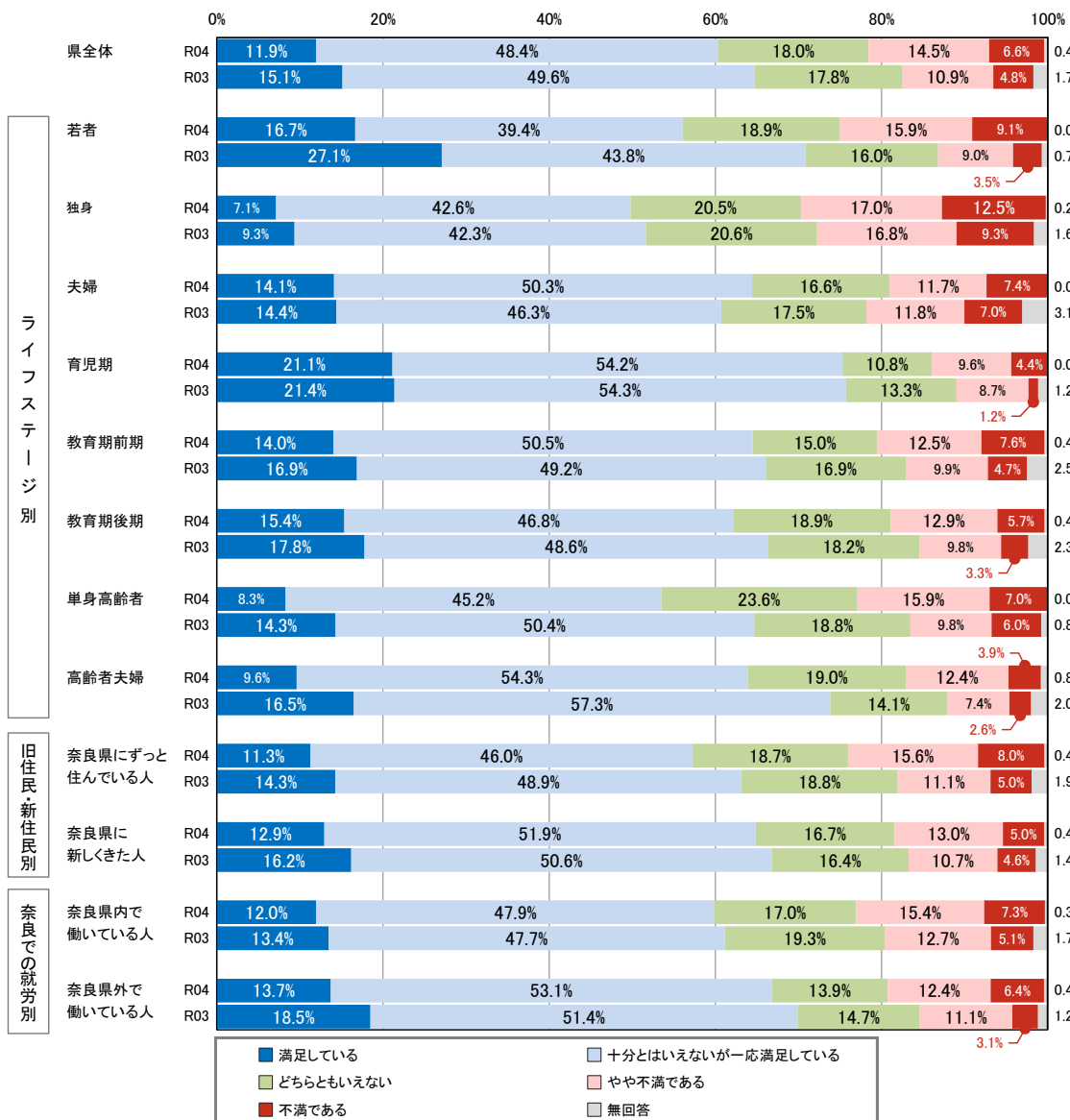
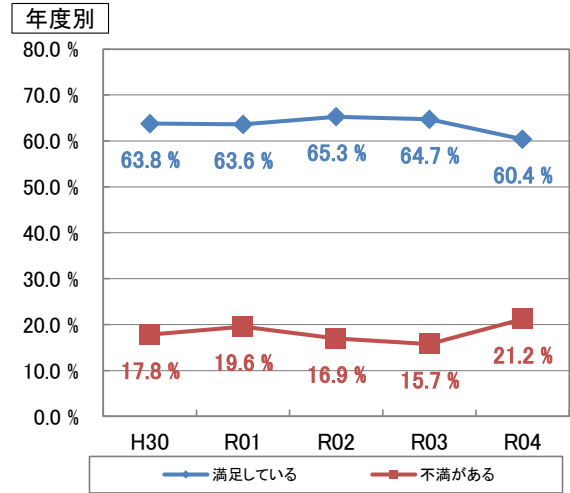
1-1 現在の暮らし向きの実感（問1）

■「満足」（「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」）している人は60.4%で、令和3年度と比較すると、4.3ポイント減少しています。「不満」（「やや不満である」+「不満である」）を抱えている人は21.2%で、令和3年度と比較すると、5.4ポイント増加しています。

■ライフステージ別に見ると、「満足」している人が最も多いのは『育児期』（75.3%）となっています。一方、「不満」を抱えている人が最も多いのは『独身』（29.5%）となっています。

■旧住民・新住民別に見ると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（64.9%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（57.3%）と比べ多くなっています。

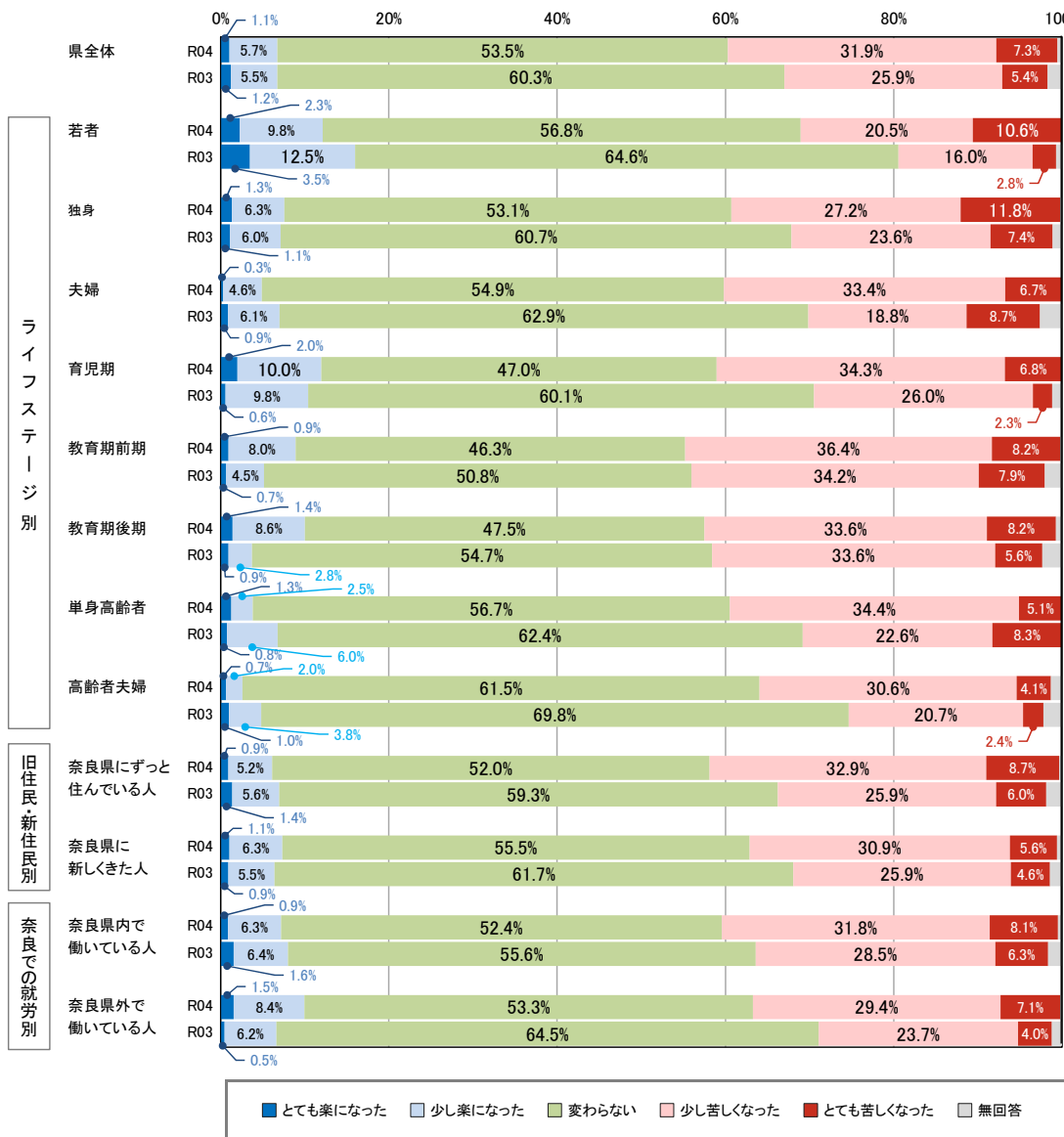
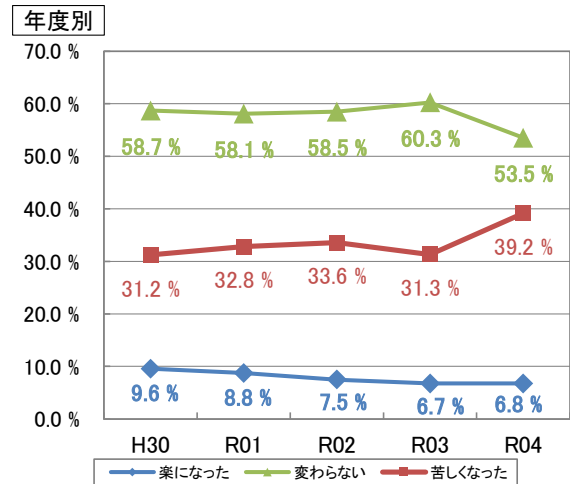
■奈良での就労別に見ると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』（66.8%）が『奈良県内で働いている人』（59.9%）と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

- 「変わらない」と感じている人は 53.5%で、令和3年度から 6.8ポイント減少しています。「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人（6.8%）は横ばい、また、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人（39.2%）は、7.9ポイント増加しています。
- ライフステージ別に見ると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期前期』（44.6%）が最も多く、次いで『教育期後期』（41.8%）となっています。
- 旧住民・新住民別に見ると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（41.6%）が『奈良県に新しくきた人』（36.6%）と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別に見ると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（40.0%）が『奈良県外で働いている人』（36.5%）と比べ多くなっています。

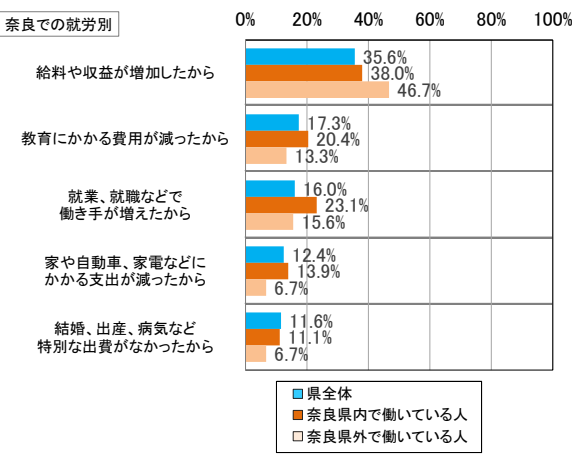
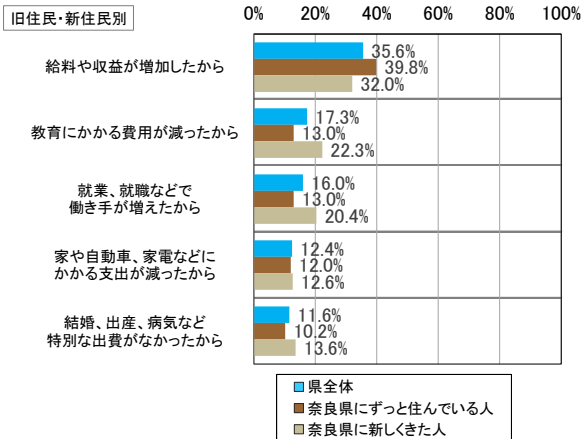
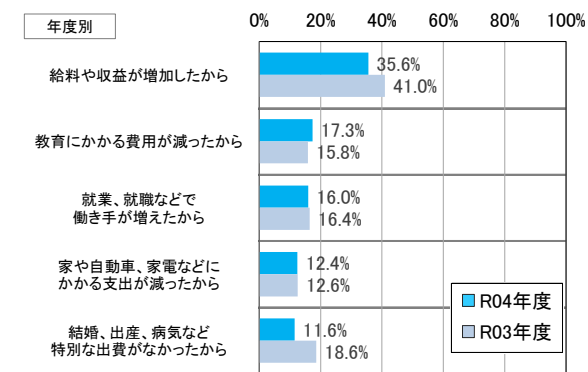
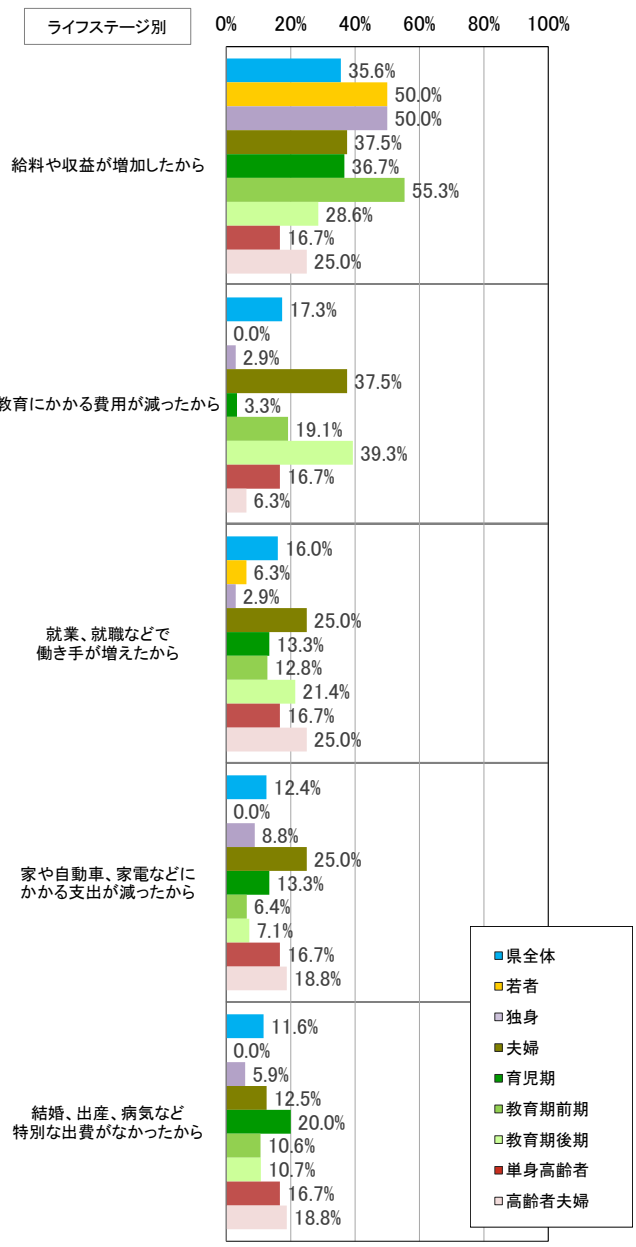


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由

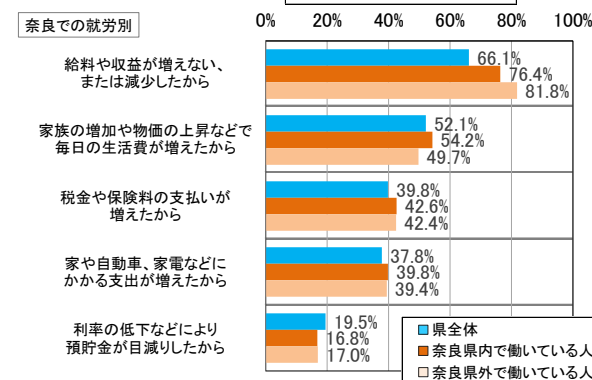
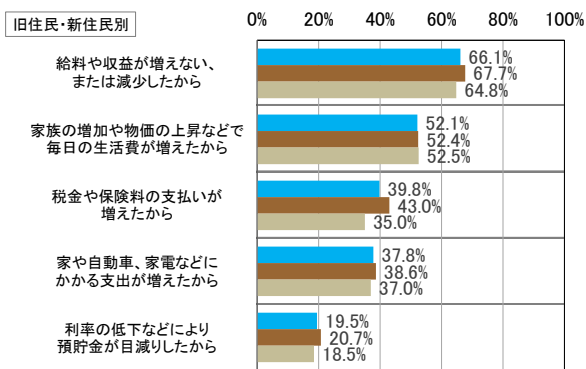
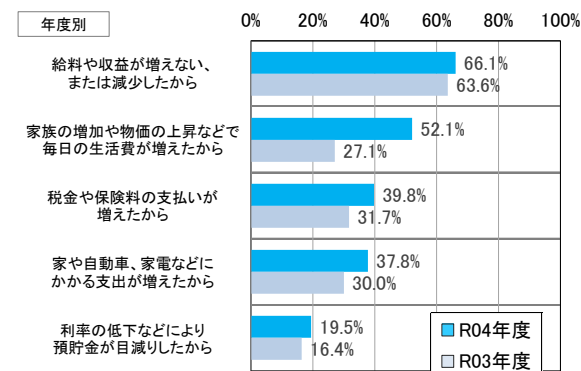
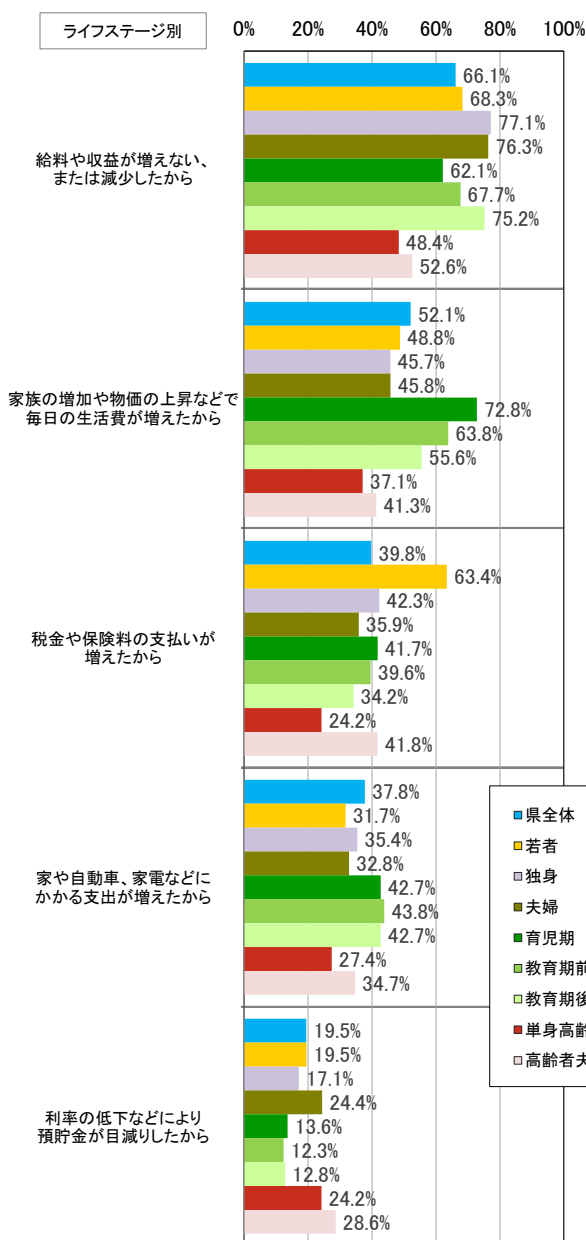
(1) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(35.6%)が最も多く、次いで「教育にかかる費用が減ったから」(17.3%)、「就業、就職などで働き手が増えたから」(16.0%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が減ったから」(12.4%)、「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」(11.6%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「就業、就職などで働き手が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』と『高齢者夫婦』が同程度、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由 (問4 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(66.1%)が最も多く、次いで「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(52.1%)、「税金や保険料の支払いが増えたから」(39.8%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(37.8%)、「利率の低下などにより預貯金が目減りしたから」(19.5%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『独身』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』と『奈良県に新しくきた人』が同程度、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多く、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』と『奈良県外で働いている人』が同程度となっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「利率の低下などにより預貯金が目減りしたから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』と『奈良県外で働いている人』が同程度となっています。



1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無（問5）

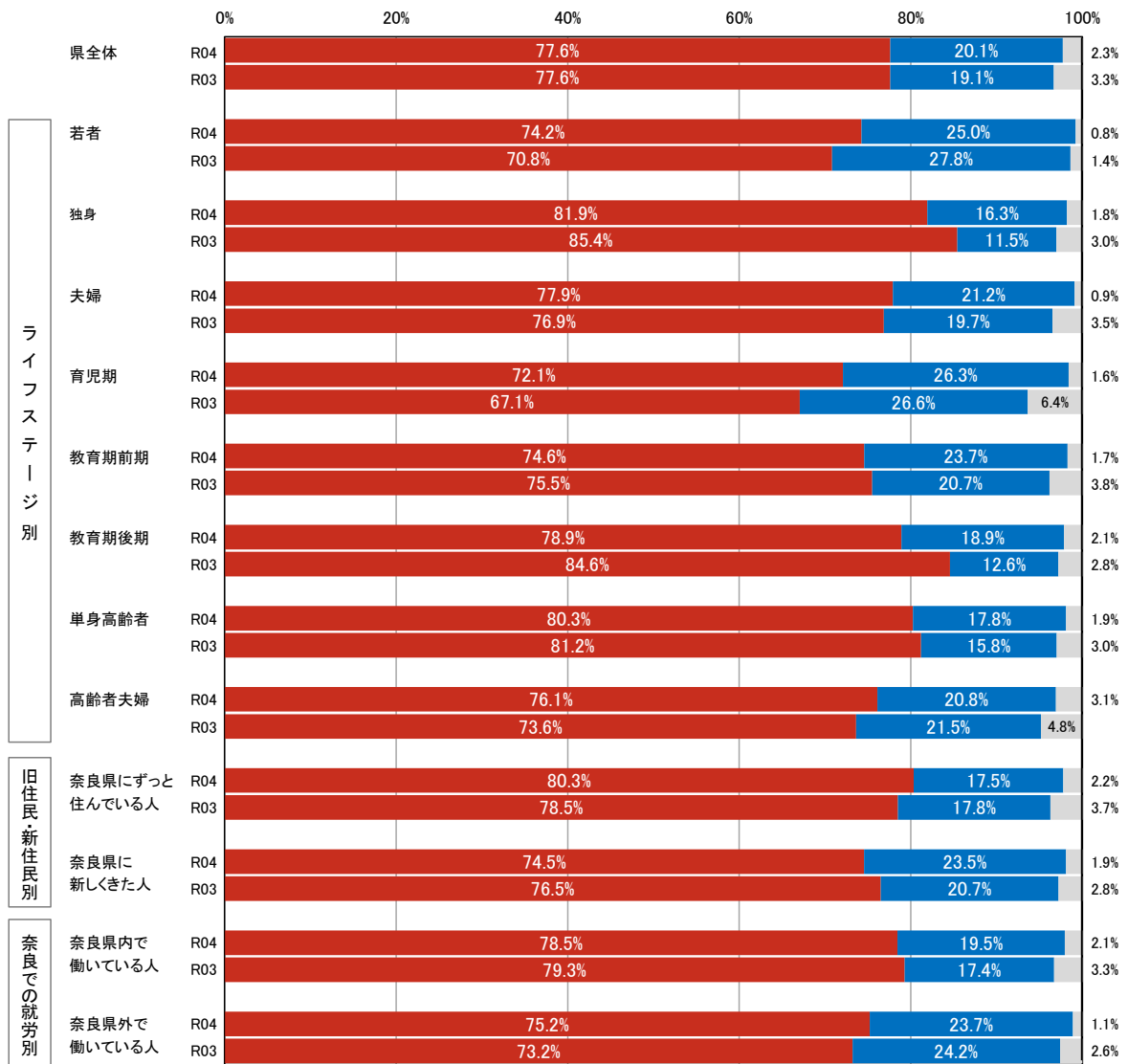
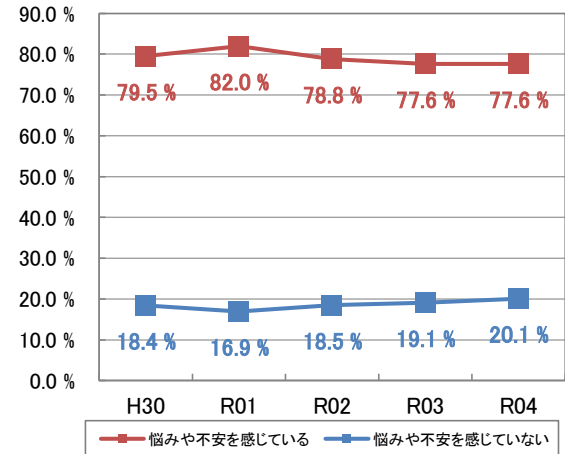
■日頃の生活での悩みや不安の有無を尋ねたところ、「悩みや不安を感じている」と答えた人は77.6%となっています。「悩みや不安を感じている」と答えた人は、令和元年度から令和3年度にかけて減少傾向でしたが、今回調査では前回から横ばいとなっています。一方、「悩みや不安を感じていない人」は1.1ポイント増加して20.1%となっています。

■ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『独身』(81.9%)、『単身高齢者』(80.3%)で8割以上となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(80.3%)が『奈良県に新しくきた人』(74.5%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』(78.5%)が『奈良県外で働いている人』(75.2%)と比べ多くなっています。

年度別

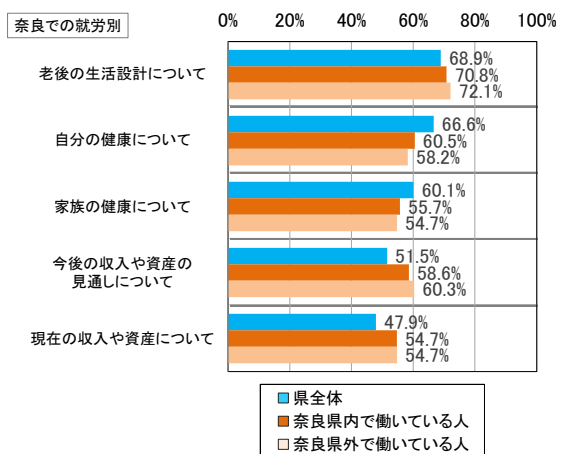
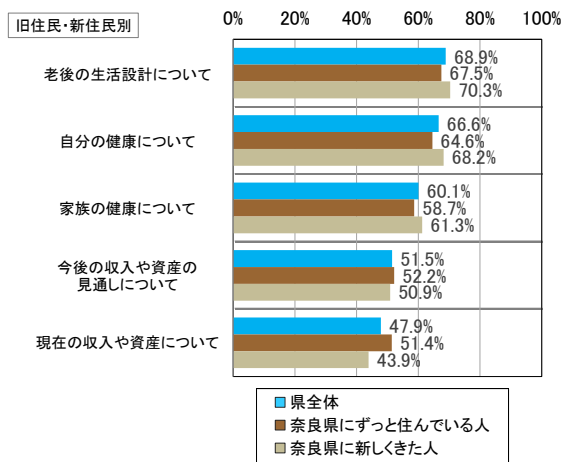
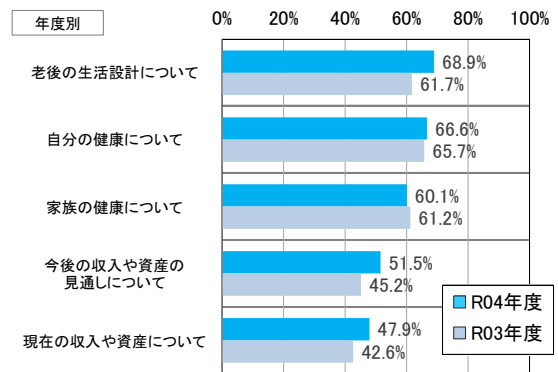
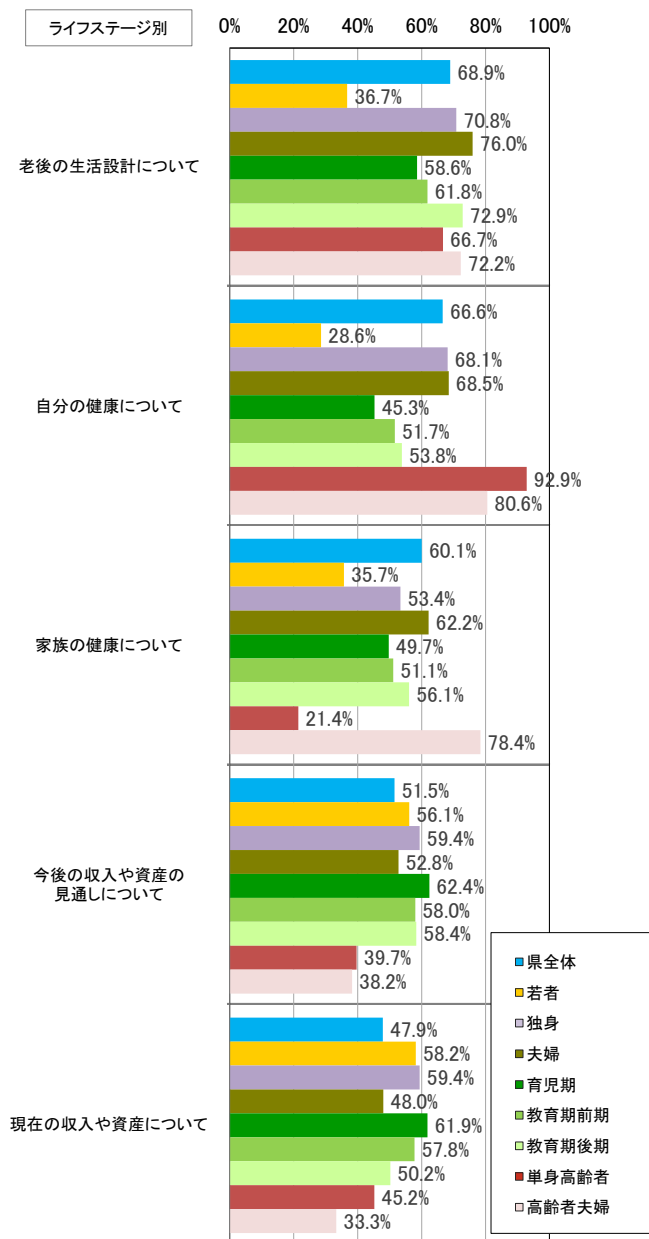


■悩みや不安を感じている ■悩みや不安を感じていない □無回答

※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

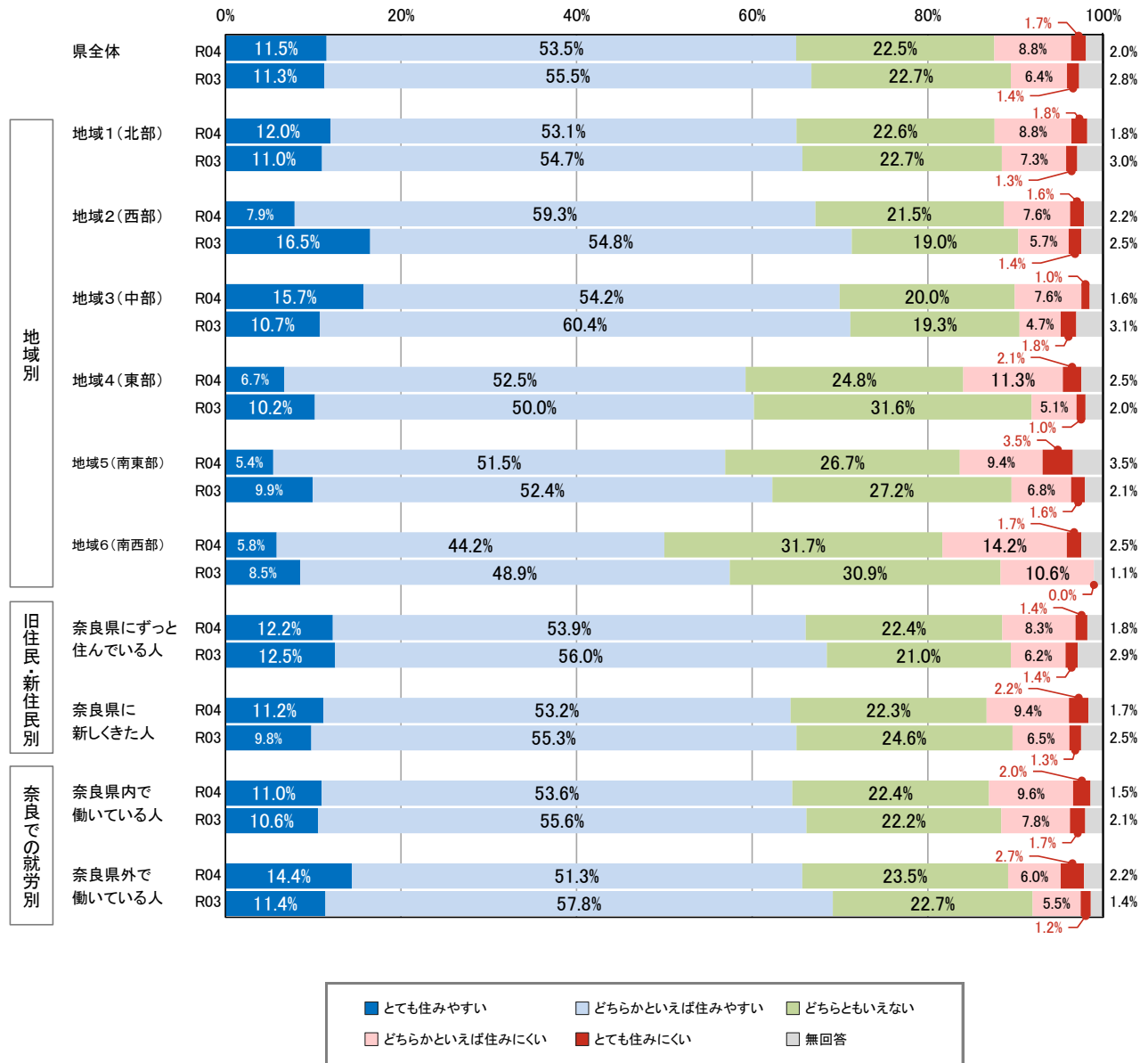
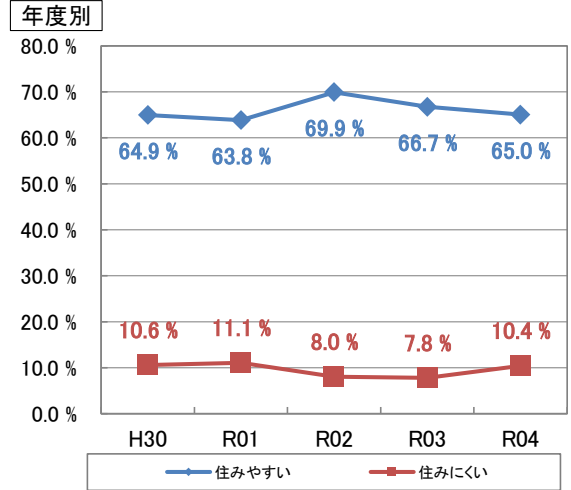
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容 (問6 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「老後の生活設計について」(68.9%)が最も多く、次いで、「自分の健康について」(66.6%)、「家族の健康について」(60.1%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(51.5%)、「現在の収入や資産について」(47.9%)が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』と『奈良県外で働いている人』が同程度となっています。



1-6 奈良県の住みやすさの評価 (問7)

- 「住みやすい」「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」と感じている人は65.0%で、令和3年度から1.7ポイント減少しています。「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」と感じている人は10.4%で、令和3年度から2.7ポイント増加しています。
- 地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域3(中部)』(70.0%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(67.2%)となっており、『地域6(南西部)』(50.0%)が最も少なくなっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(66.1%)が『奈良県に新しくきた人』(64.4%)と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県外で働いている人』(65.7%)が『奈良県内で働いている人』(64.6%)と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

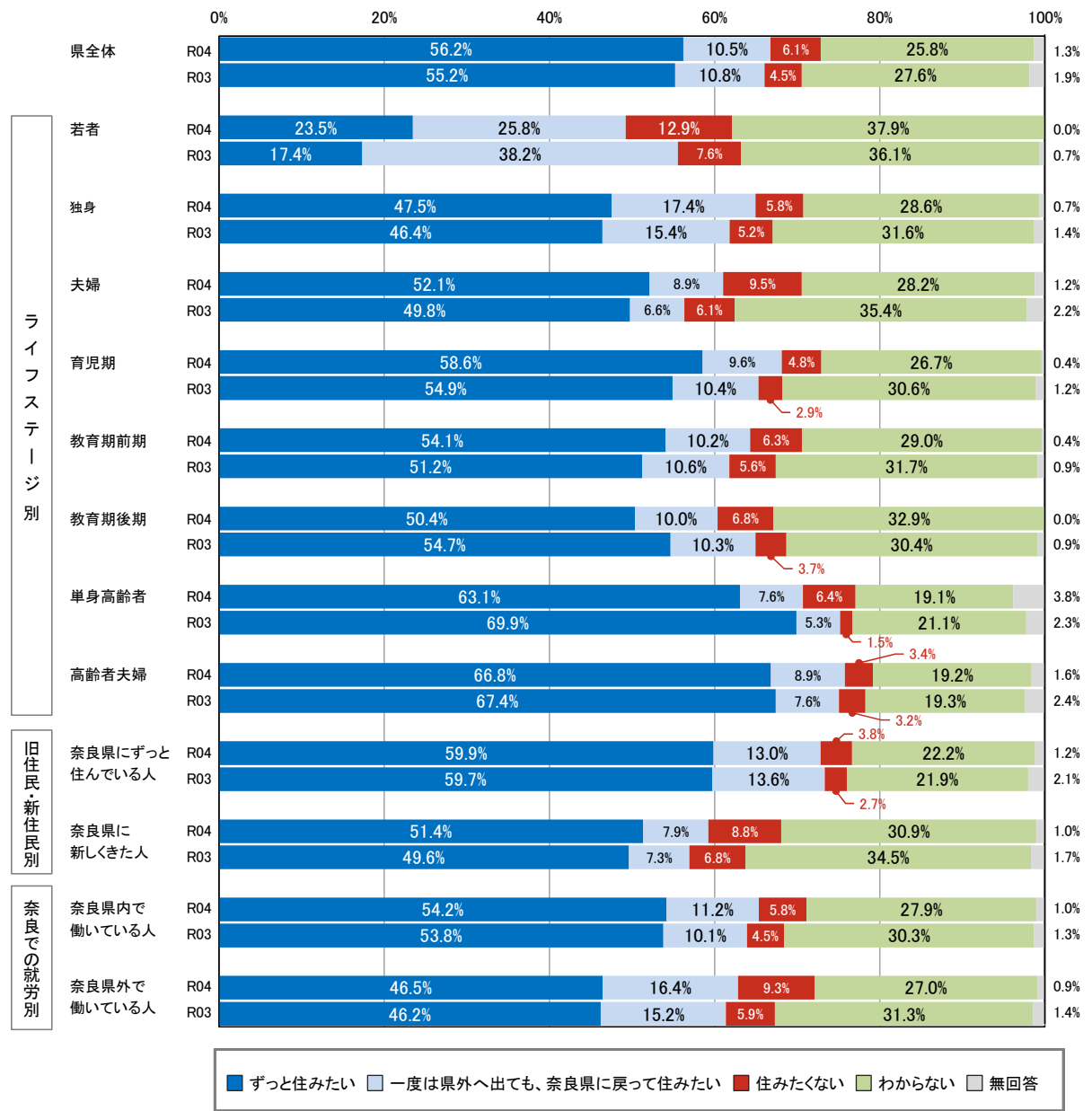
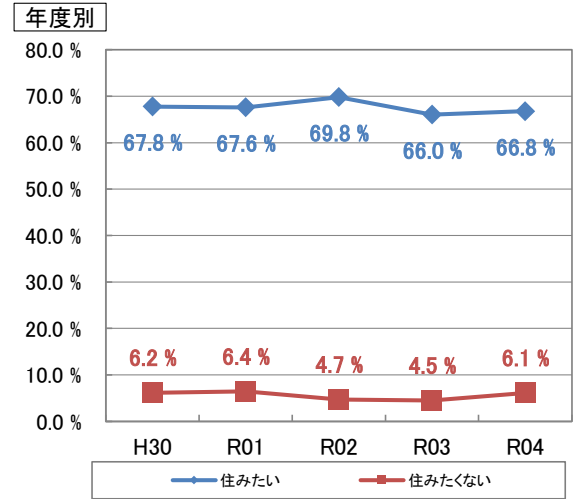
1-7 将来の奈良県での定住意向 (問8)

■奈良県に「住みたい」「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は 66.8%で、令和3年度と比較すると、0.7ポイント増加しています。

■ライフステージ別に見ると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『高齢者夫婦』(66.8%)、最も少ないのは『若者』(23.5%)となっています。一方、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』(25.8%)となっています。

■旧住民・新住民別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(72.8%)が『奈良県に新しくきた人』(59.2%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』(65.4%)が『奈良県外で働いている人』(62.8%)と比べ多くなっています。

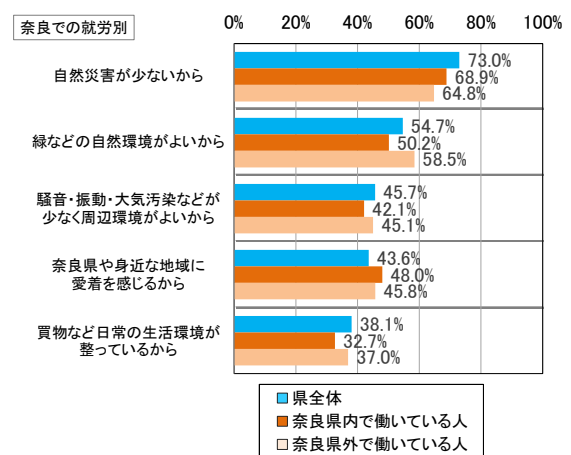
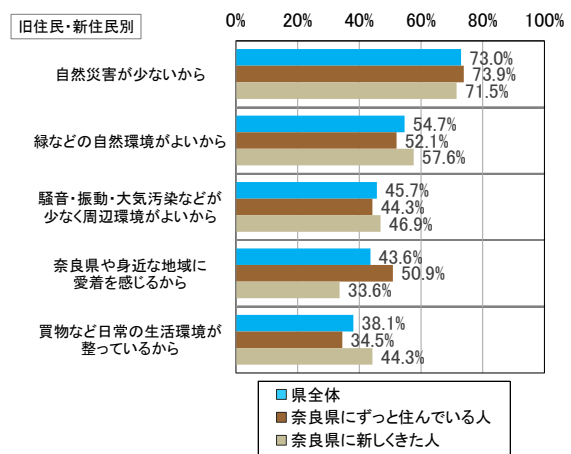
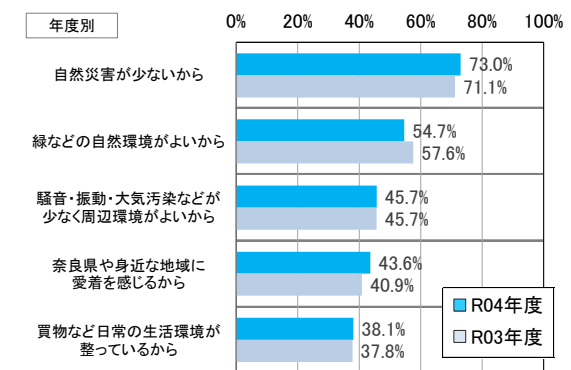
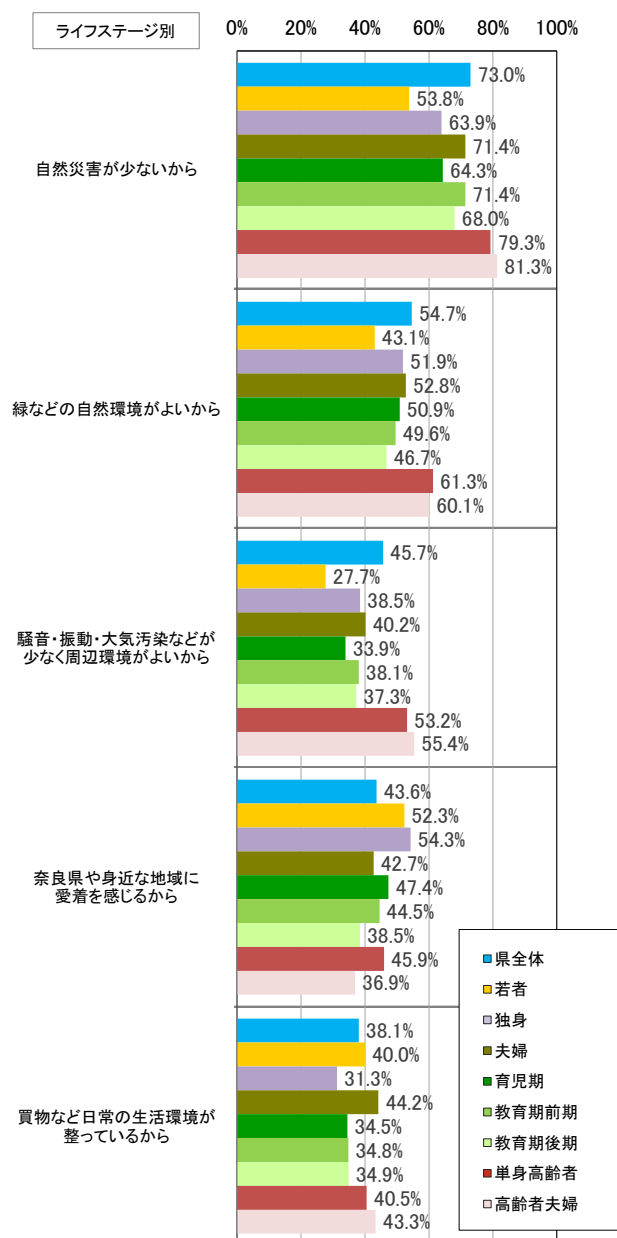


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由

(1) 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

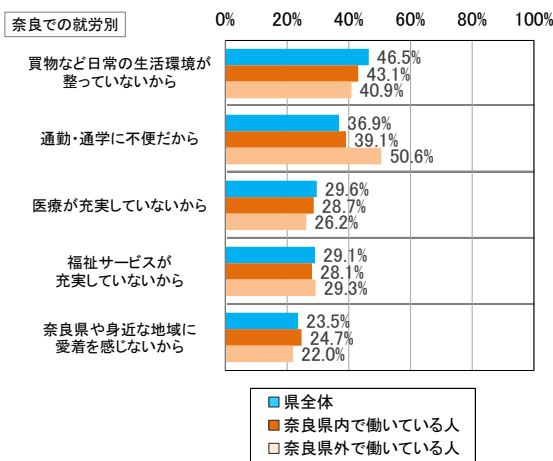
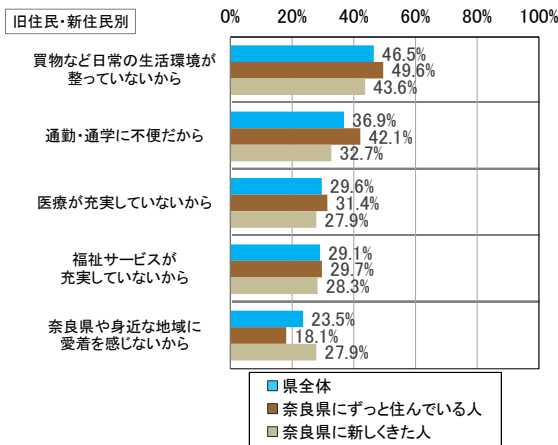
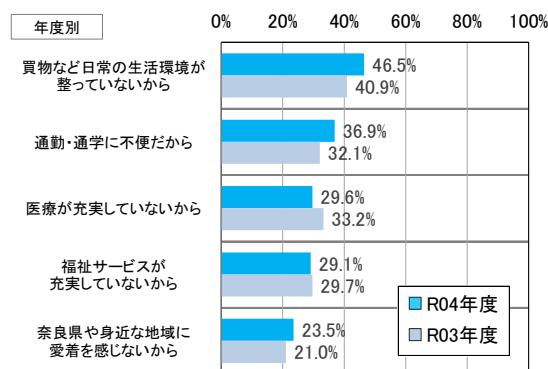
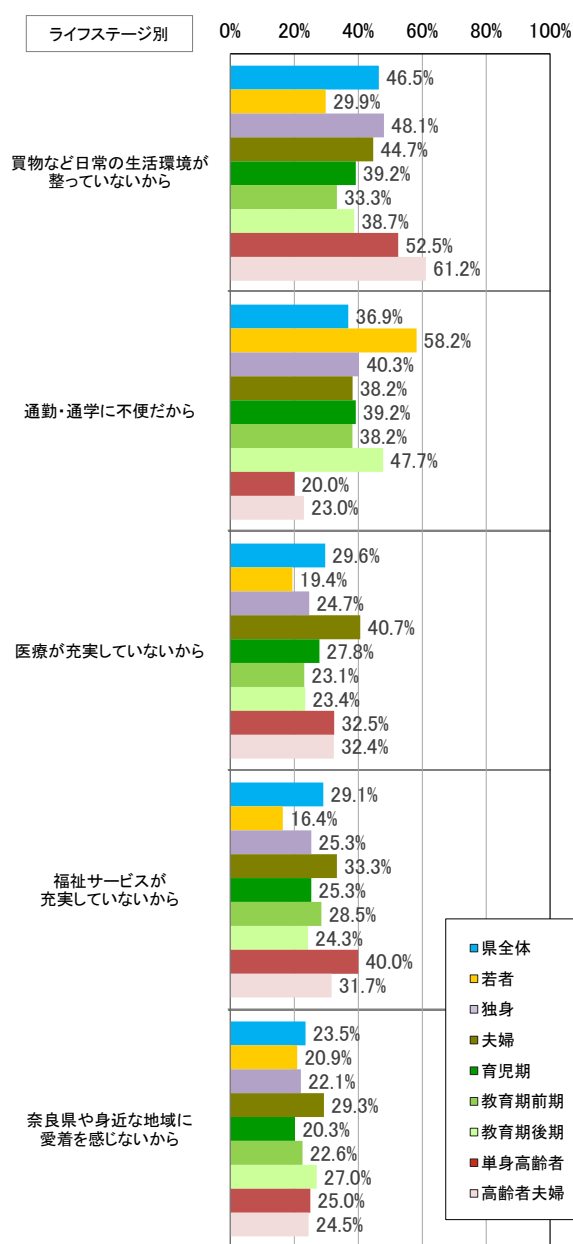
- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」(73.0%)が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」(54.7%)、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」(45.7%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」(43.6%)、「買物など日常の生活環境が整っているから」(38.1%)が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『独身』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っているから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



(2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由

(問 10 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

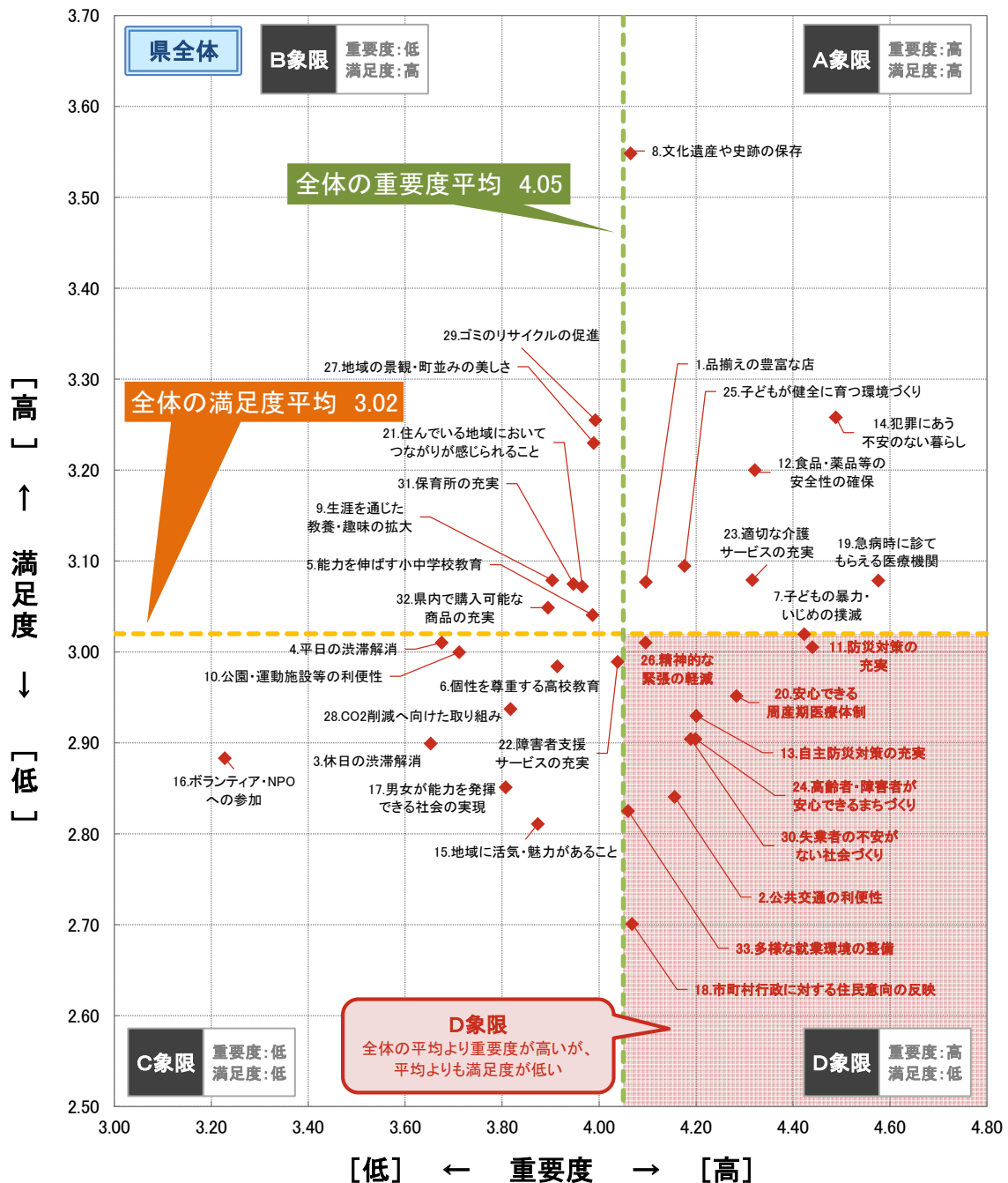
- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買物など日常生活環境が整っていないから」(46.5%)が最も多く、次いで「通勤・通学に不便だから」(36.9%)、「医療が充実していないから」(29.6%)、「福祉サービスが充実していないから」(29.1%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」(23.5%)が多くなっています。
- 「買物など日常生活環境が整っていないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「医療が充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「福祉サービスが充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



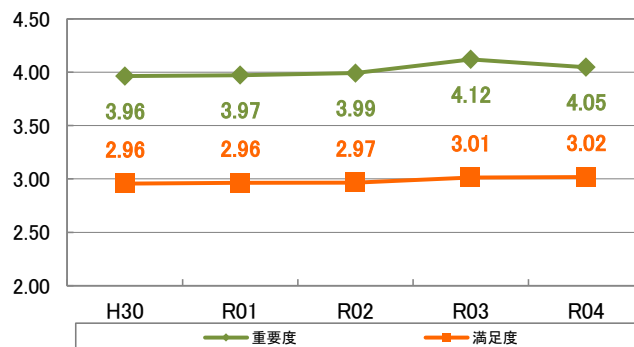
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について(問12 5段階ポイント評価)

(1) 県全体

- 身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階(加重平均)で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。(次ページ参照) ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。(「ニーズ得点＝＜重要度(加重平均)＞×＜6－満足度(加重平均)＞」により算出。)
- 県全体では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 30 年度からほぼ横ばいでしたが、令和 3 年度に大きく上昇しています。今回は前回よりやや低下していますが、令和 2 年度以前と比べて高くなっています。また、満足度の平均値は令和 3 年度と横ばいとなっています。



【身近な生活に関する 33 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5 年間の比較）】

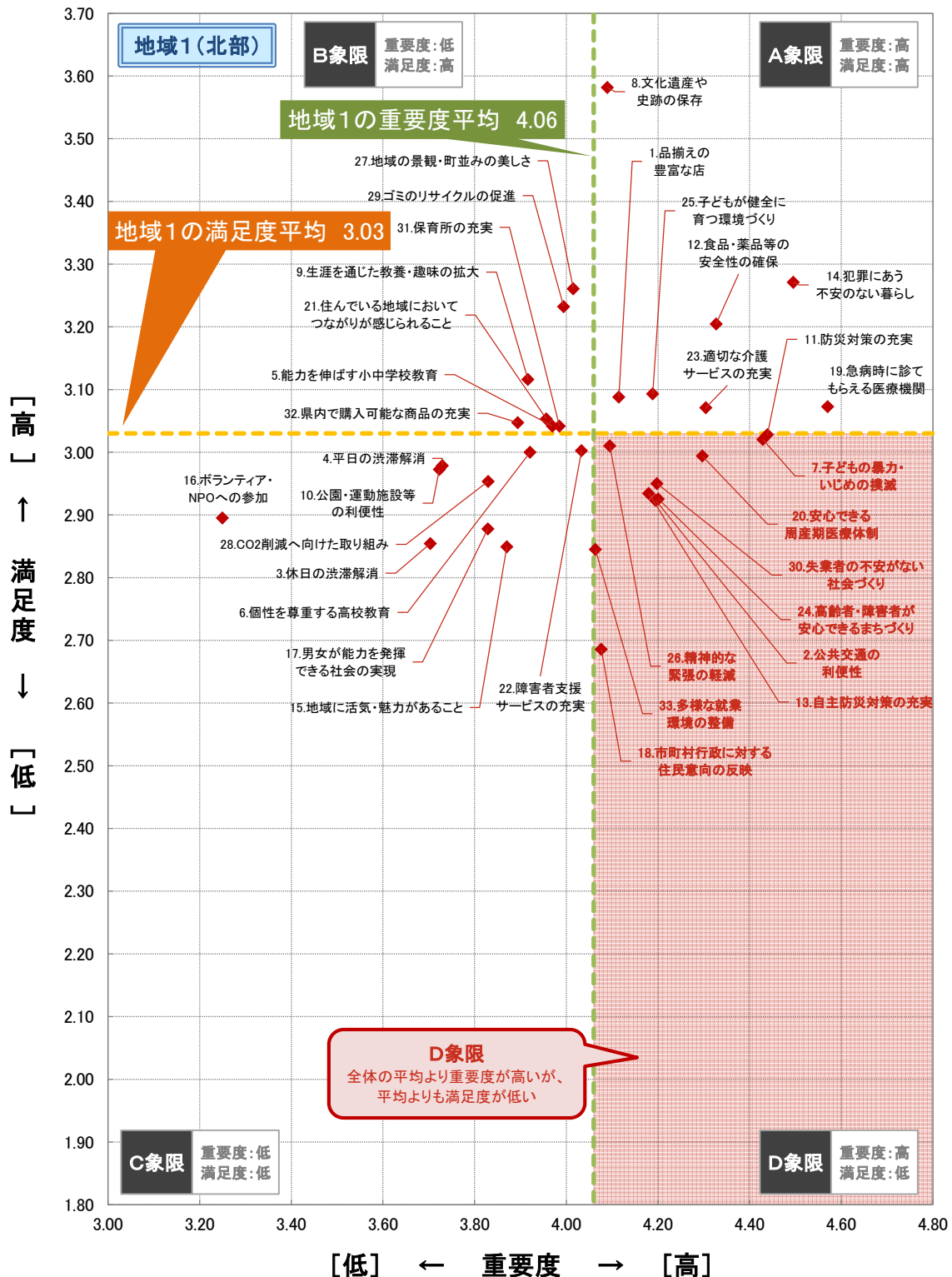
項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					象限				
		R04	R03	R02	R01	H30	R04	R03	R02	R01	H30	R04	R03	R02	R01	H30	R04	R03	R02	R01	H30
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	4.10	4.14	3.96	3.98	3.97	3.08	3.10	3.04	3.03	3.00	11.98	11.99	11.73	11.84	11.90	A	A	B	A	A
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.16	4.13	4.02	4.19	4.13	2.84	2.93	2.81	2.79	2.84	13.13	12.68	12.83	13.45	13.06	D	D	D	D	D
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.65	3.65	3.45	3.35	3.42	2.90	3.00	2.99	3.01	2.97	11.32	10.96	10.37	10.02	10.35	C	C	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.68	3.65	3.47	3.39	3.43	3.01	3.06	3.04	3.08	3.06	10.99	10.71	10.29	9.92	10.06	C	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.99	4.05	3.81	3.81	3.82	3.04	3.02	2.95	2.95	2.96	11.80	12.10	11.62	11.63	11.62	B	B	C	C	B
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.91	3.95	3.75	3.76	3.72	2.98	2.96	2.92	2.91	2.92	11.80	11.99	11.57	11.61	11.46	C	C	C	C	C
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.42	4.54	4.36	4.40	4.36	3.02	3.01	3.00	3.01	3.01	13.18	13.58	13.08	13.19	13.04	A	D	A	A	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	4.07	4.12	3.99	3.96	3.97	3.55	3.57	3.51	3.57	3.51	9.97	10.00	9.92	9.60	9.87	A	A	B	B	A
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.90	4.01	3.81	3.78	3.77	3.08	3.08	3.02	3.00	3.03	11.40	11.72	11.36	11.34	11.20	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.71	3.79	3.60	3.51	3.52	3.00	2.99	2.94	2.90	2.95	11.14	11.42	11.00	10.89	10.73	C	C	C	C	C
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.44	4.56	4.50	4.44	4.38	3.01	2.99	2.90	2.89	2.91	13.30	13.73	13.92	13.81	13.55	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.32	4.49	4.37	4.28	4.28	3.20	3.27	3.16	3.21	3.16	12.10	12.27	12.39	11.94	12.13	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.20	4.28	4.22	4.19	4.14	2.93	2.94	2.87	2.84	2.79	12.90	13.09	13.22	13.25	13.31	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.49	4.59	4.50	4.51	4.48	3.26	3.26	3.22	3.22	3.16	12.31	12.59	12.50	12.56	12.76	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.87	3.89	3.79	3.78	3.79	2.81	2.76	2.73	2.72	2.69	12.35	12.58	12.41	12.41	12.53	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.23	3.18	3.11	3.03	3.05	2.88	2.88	2.84	2.84	2.84	10.06	9.92	9.82	9.58	9.63	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.81	3.91	3.73	3.69	3.68	2.85	2.82	2.81	2.78	2.77	11.99	12.44	11.93	11.86	11.90	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.07	4.16	4.04	4.02	3.98	2.70	2.60	2.57	2.56	2.58	13.42	14.15	13.85	13.83	13.63	D	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.58	4.66	4.60	4.58	4.57	3.08	3.03	2.99	3.00	3.01	13.37	13.84	13.83	13.73	13.67	A	A	A	A	A
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.28	4.35	4.21	4.23	4.21	2.95	2.92	2.88	2.85	2.80	13.06	13.39	13.16	13.32	13.47	D	D	D	D	D
21	住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること	3.97	4.06	3.93	3.98	3.99	3.07	3.08	3.02	3.05	3.00	11.61	11.83	11.72	11.74	11.99	B	B	B	A	A
22	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.04	4.18	4.04	4.02	4.03	2.99	2.96	2.92	2.92	2.88	12.16	12.69	12.47	12.40	12.56	C	D	D	D	D
23	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.32	4.40	4.30	4.32	4.31	3.08	3.06	3.02	2.98	2.97	12.61	12.94	12.83	13.06	13.04	A	A	A	A	A
24	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.20	4.27	4.18	4.17	4.16	2.90	2.89	2.83	2.77	2.82	13.00	13.27	13.22	13.47	13.22	D	D	D	D	D
25	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.18	4.29	4.17	4.15	4.18	3.09	3.09	3.05	3.03	3.04	12.13	12.50	12.30	12.35	12.40	A	A	A	A	A
26	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.10	4.20	4.11	4.05	4.05	3.01	2.96	2.98	2.97	2.97	12.25	12.76	12.41	12.25	12.26	D	D	A	A	A
27	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.99	4.03	3.95	3.91	3.92	3.23	3.24	3.21	3.21	3.21	11.05	11.11	11.01	10.94	10.95	B	B	B	B	B
28	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.82	3.88	3.83	3.77	3.71	2.94	2.92	2.89	2.87	2.89	11.69	11.96	11.92	11.79	11.54	C	C	C	C	C
29	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.99	4.06	3.98	3.97	3.95	3.26	3.26	3.20	3.23	3.26	10.96	11.13	11.14	11.01	10.82	B	B	B	A	B
30	失業の不安がなく働けること	4.19	4.31	4.20	4.17	4.15	2.90	2.89	2.83	2.83	2.82	12.97	13.39	13.29	13.19	13.18	D	D	D	D	D
31	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	3.95	4.05	3.87	3.88	3.90	3.07	3.04	3.00	3.01	3.00	11.55	11.96	11.62	11.58	11.69	B	B	B	B	B
32	県内で買いたいものが販売されていること	3.90	4.00	3.85	3.79	3.80	3.05	3.07	2.99	3.04	2.99	11.50	11.74	11.58	11.22	11.43	B	B	B	B	B
33	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.06	4.14	4.01	4.00	3.95	2.83	2.76	2.73	2.72	2.71	12.89	13.41	13.12	13.10	13.01	D	D	D	D	C

(注) 「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページのA～D象限に対応している。
 網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの(C象限・D象限)であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの(D象限)、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

(2) 地域別

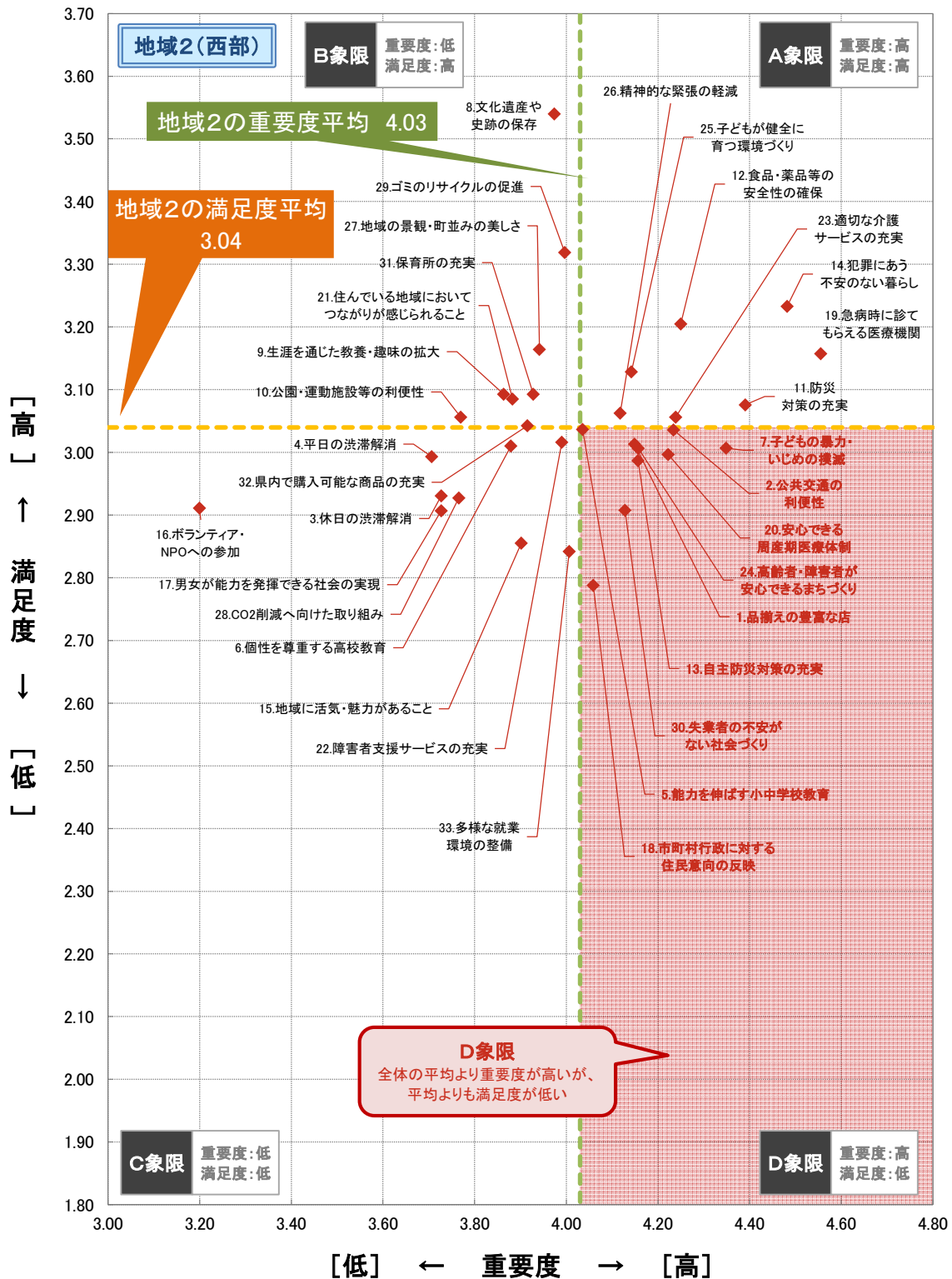
①地域1（北部）

- 『地域1（北部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



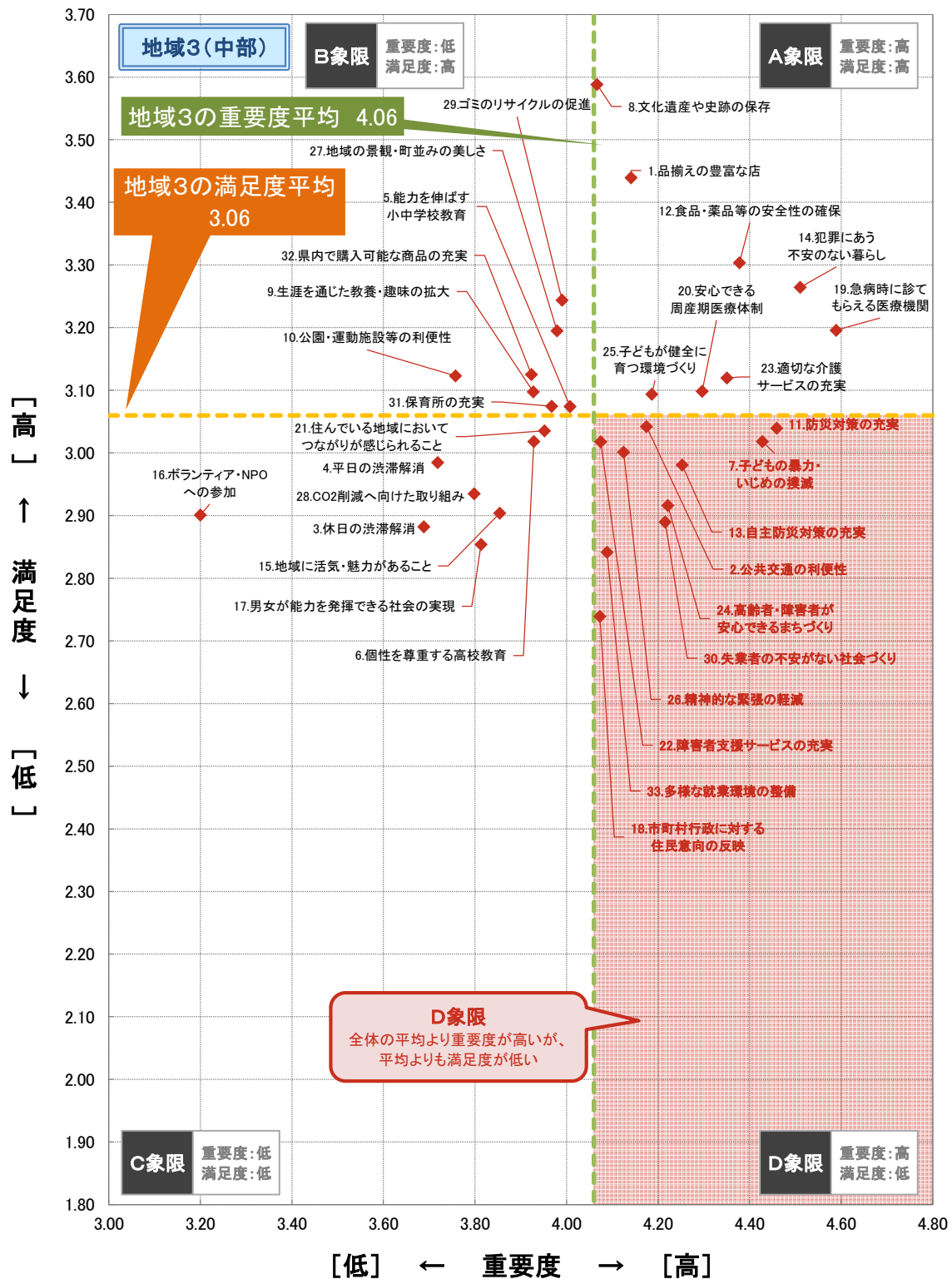
②地域2（西部）

- 『地域2（西部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



③地域3（中部）

- 『地域3（中部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

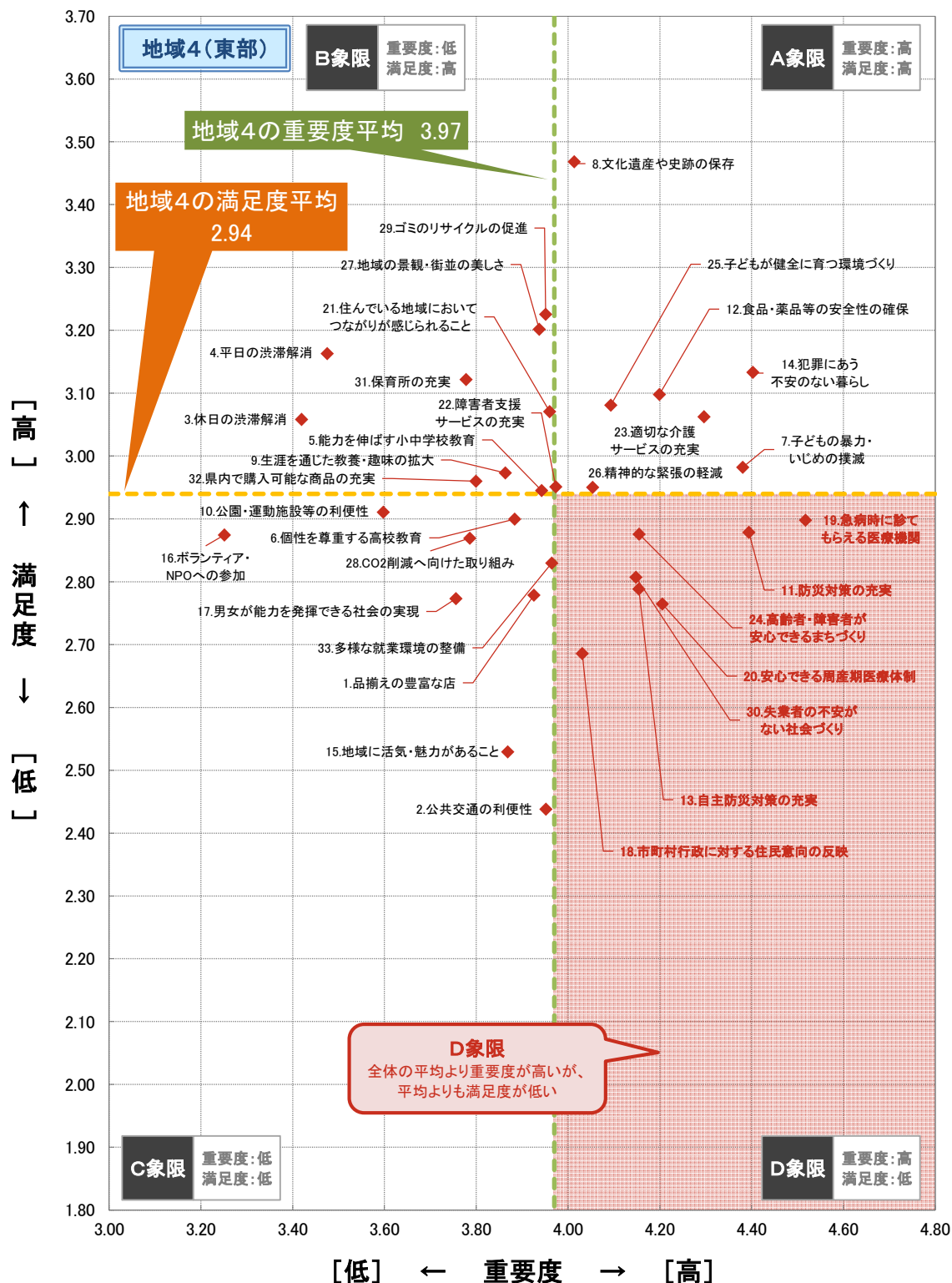


④地域4（東部）

■『地域4（東部）』では、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。

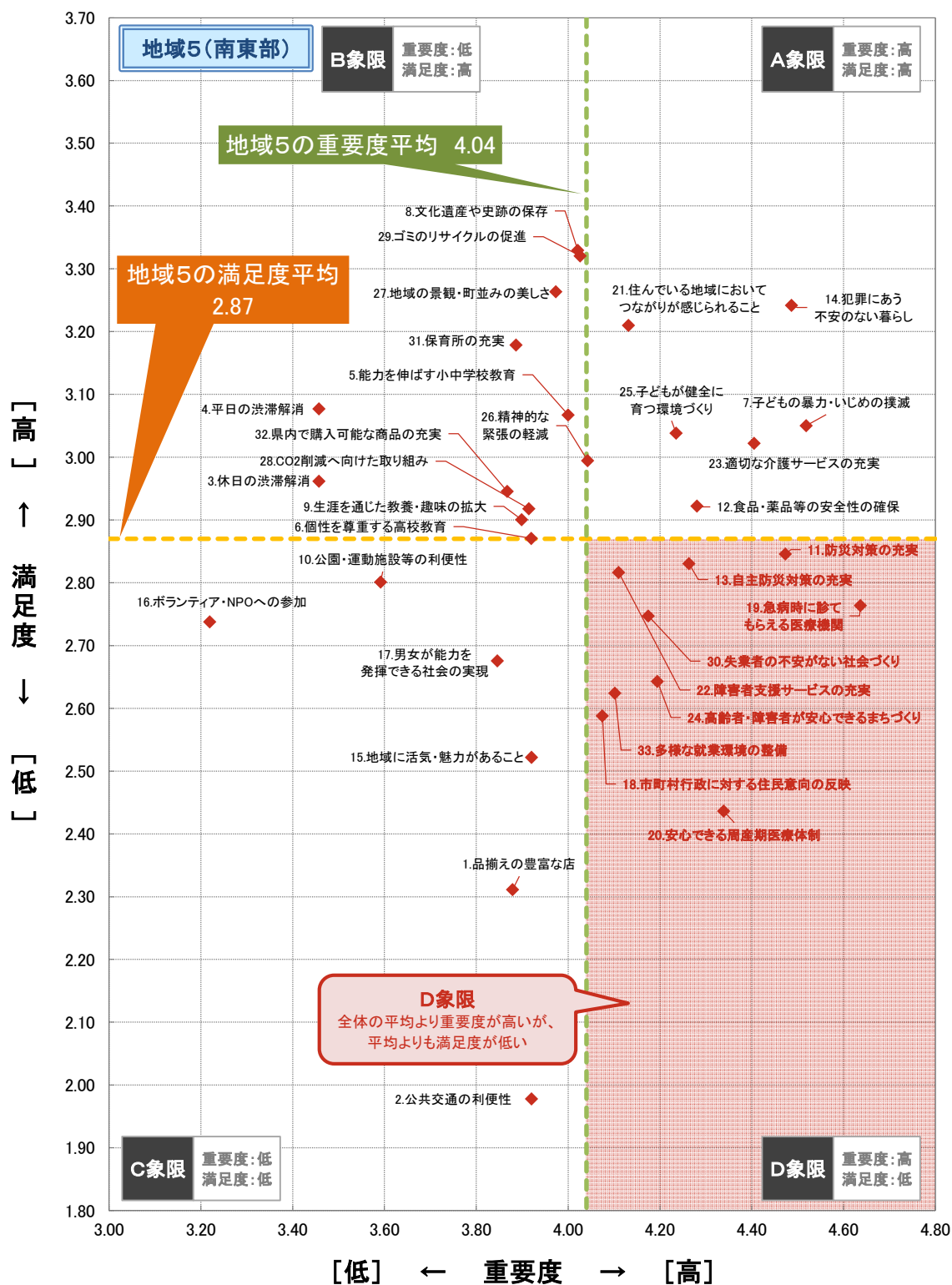
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。



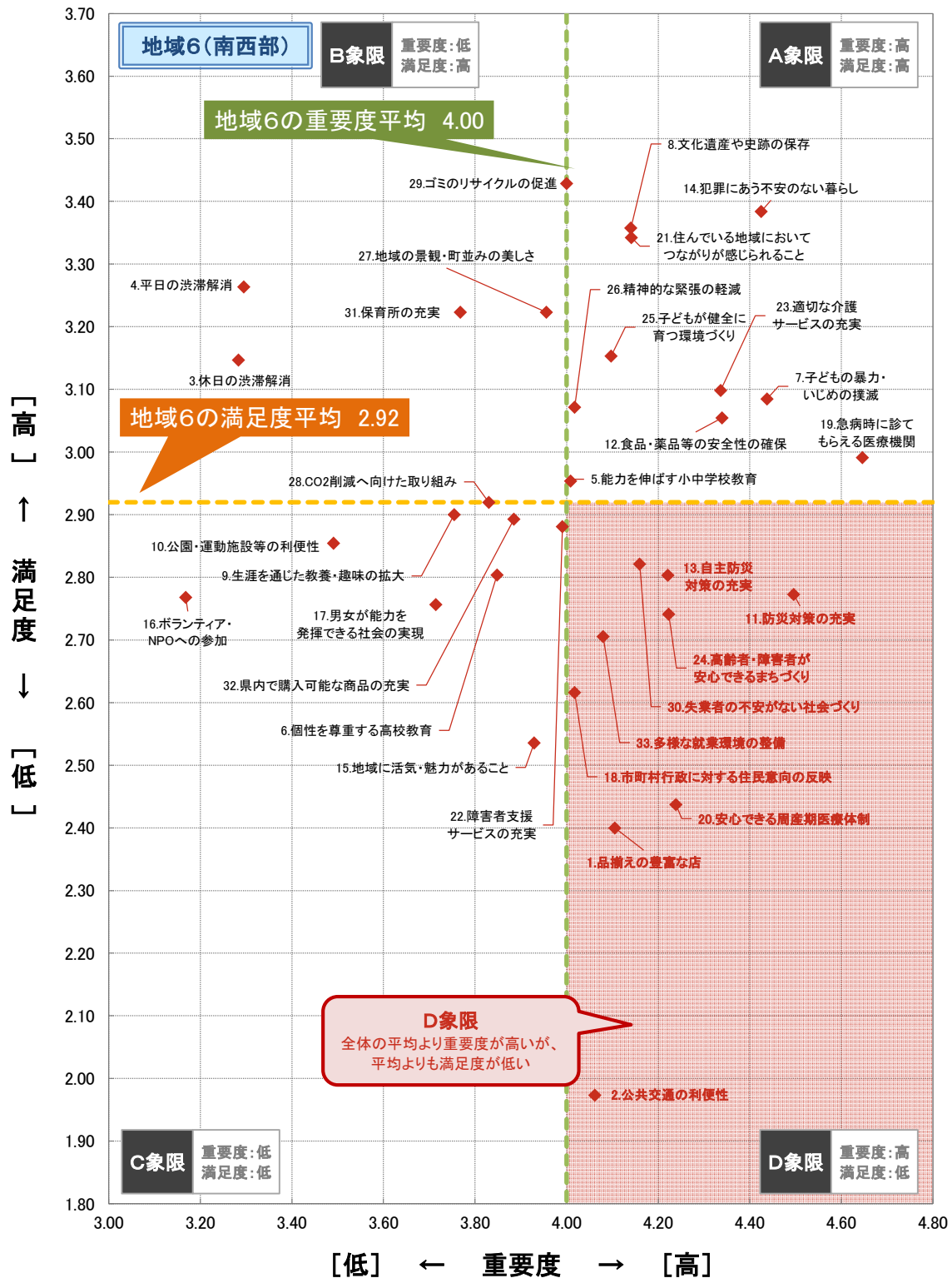
⑤地域5（南東部）

- 『地域5(南東部)』では、「2. 公共交通の利便性」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



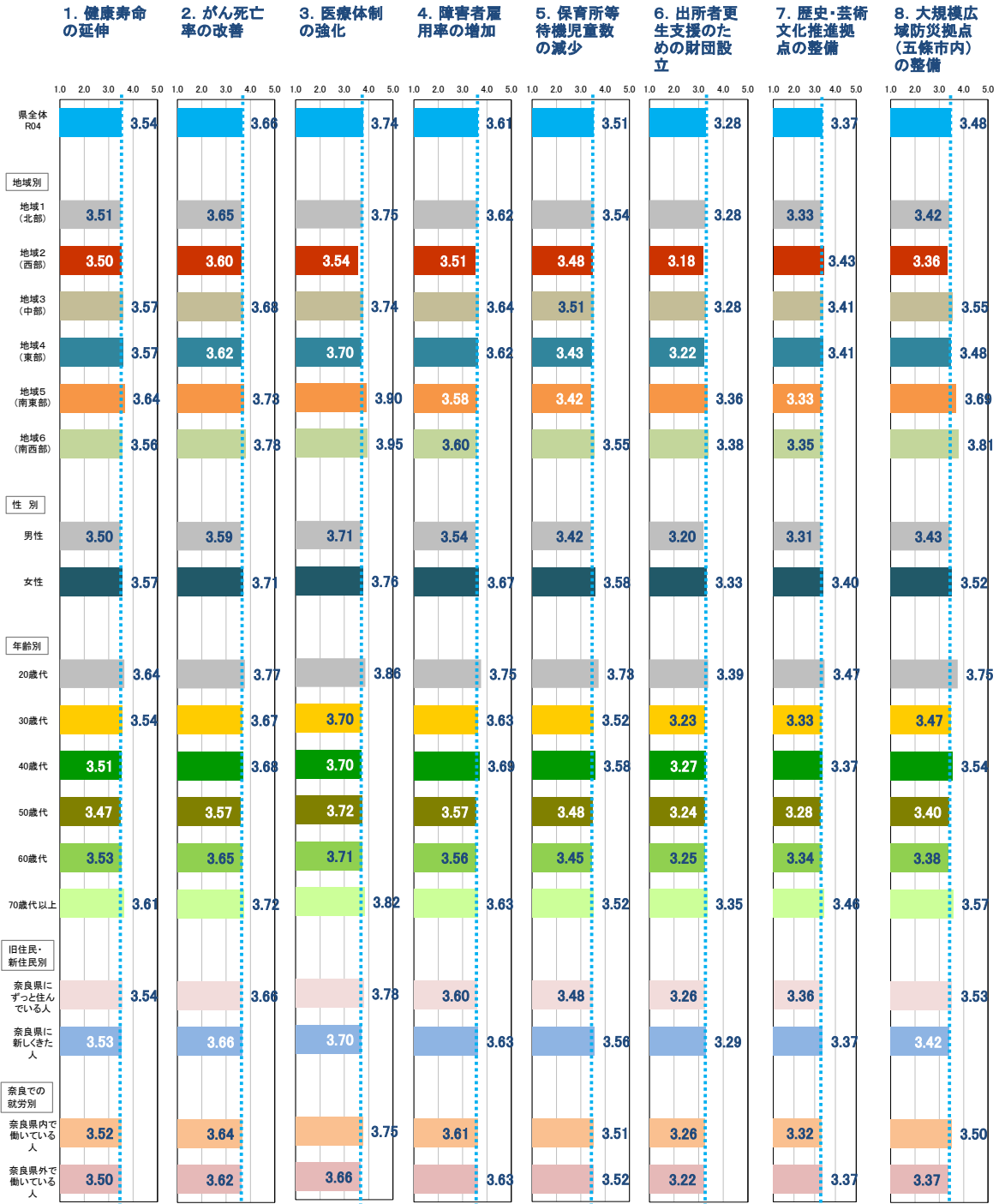
⑥地域6（南西部）

- 『地域6(南西部)』では、「2. 公共交通の利便性」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「1. 品揃えの豊富な店」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「29. ゴミのリサイクルの促進」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



3. 県の取組・県内での改善状況(問11 5段階ポイント評価)

- 県の取組・県内での改善状況に関する16項目の評価点を5点(高い)～1点(低い)の5段階で評価しました。
- 評価点は、「3. 医療体制の強化」が3.74ポイントで16項目の中で一番高くなっています。
- 地域別にみると、『地域6(南西部)』は16項目中13項目で県全体の評価点より高くなっています。一方、『地域2(西部)』は16項目14項目で県全体の評価点より低くなっています。
- 性別にみると、『女性』は全ての項目で県全体の評価点より高くなっています。
- 年齢別にみると、『20歳代』は全ての項目で県全体の評価点より高くなっています。一方、『50歳代』、『60歳代』は全ての項目で県全体の評価点より低くなっています。
- 旧住民・新住民別にみると、『奈良県にずっと住んでいる人』は16項目中9項目で県全体の評価点より高くなっています。
- 奈良での就労別にみると、『奈良県内で働いている人』は16項目中6項目で、『奈良県外で働いている人』は16項目中5項目で県全体の評価点より高くなっています。



※棒グラフの外側に示した数値は、令和4年度の県全体よりも高いもの。-----は、令和4年度の県全体の値。
 ※グラフ上の数値は小数点第2位までの記載となっていますが、県全体の値との比較にあたっては、小数点第2位以下の数値まで考慮してラベル位置や上部コメント欄の記載に反映しています。

9. 大和川の
特定都市河
川指定

10. 森林管理人
材の養成など新
たな森林環境管
理制度の構築

11. 特定農業振
興ゾーン設定に
よる農地の有効
活用と農業の生
産性向上

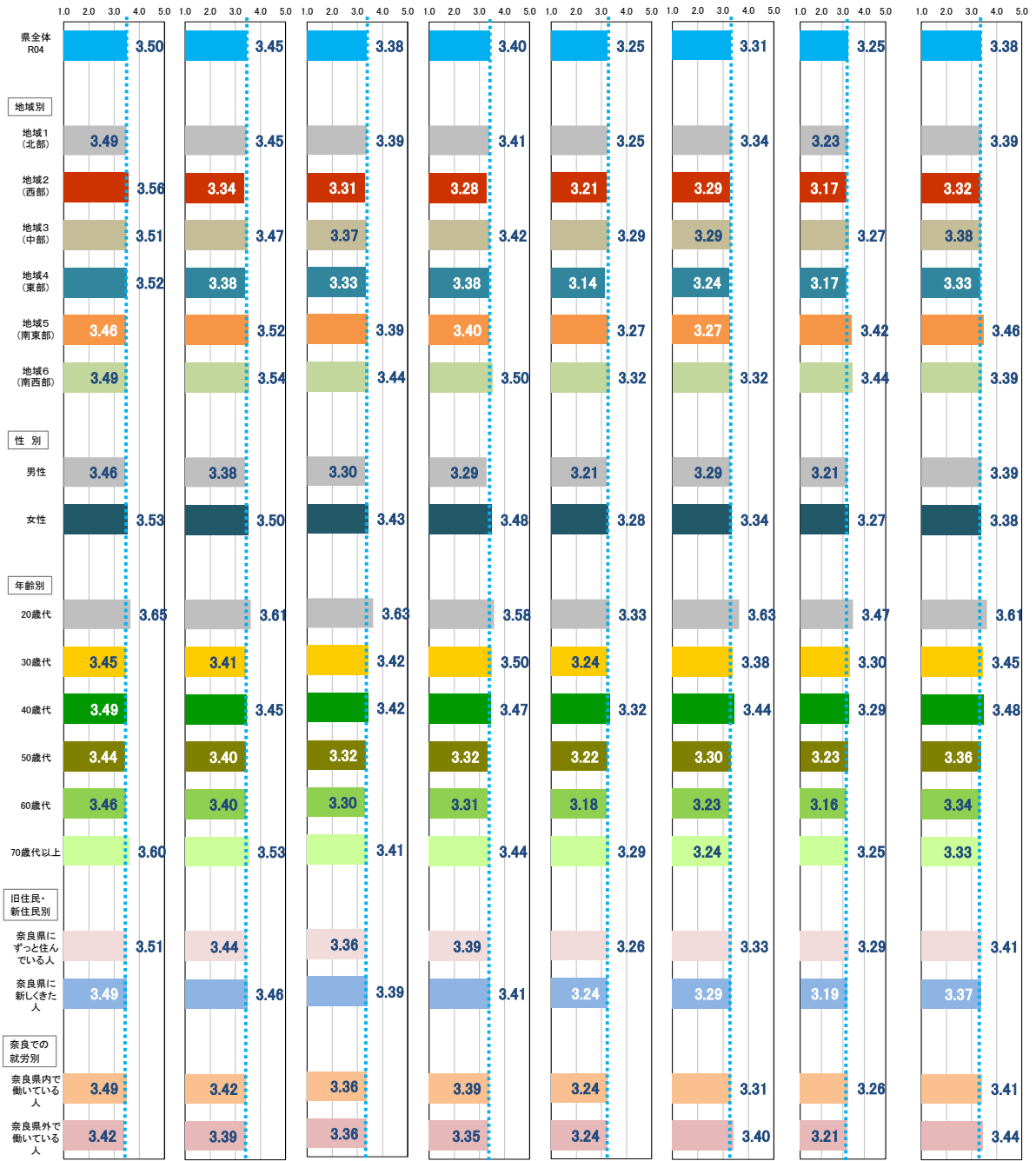
12. 「なら食と農の
魅力創造大大学校」
(NAFIC)開校による
農業担い手や料理
人の養成促進

13. 新たな工
場立地の推
進

14. 旅館・ホ
テル客室数
の増加

15. 市町村と
協働した南
部・東部地域
の振興

16. 県債残
高の減少



※棒グラフの外側に示した数値は、令和4年度の県全体よりも高いもの。.....は、令和4年度の県全体の値。

※グラフ上の数値は小数点第2位までの記載となっていますが、県全体の値との比較にあたっては、小数点第2位以下の数値まで考慮してラベル位置や上部コメント欄の記載に反映しています。

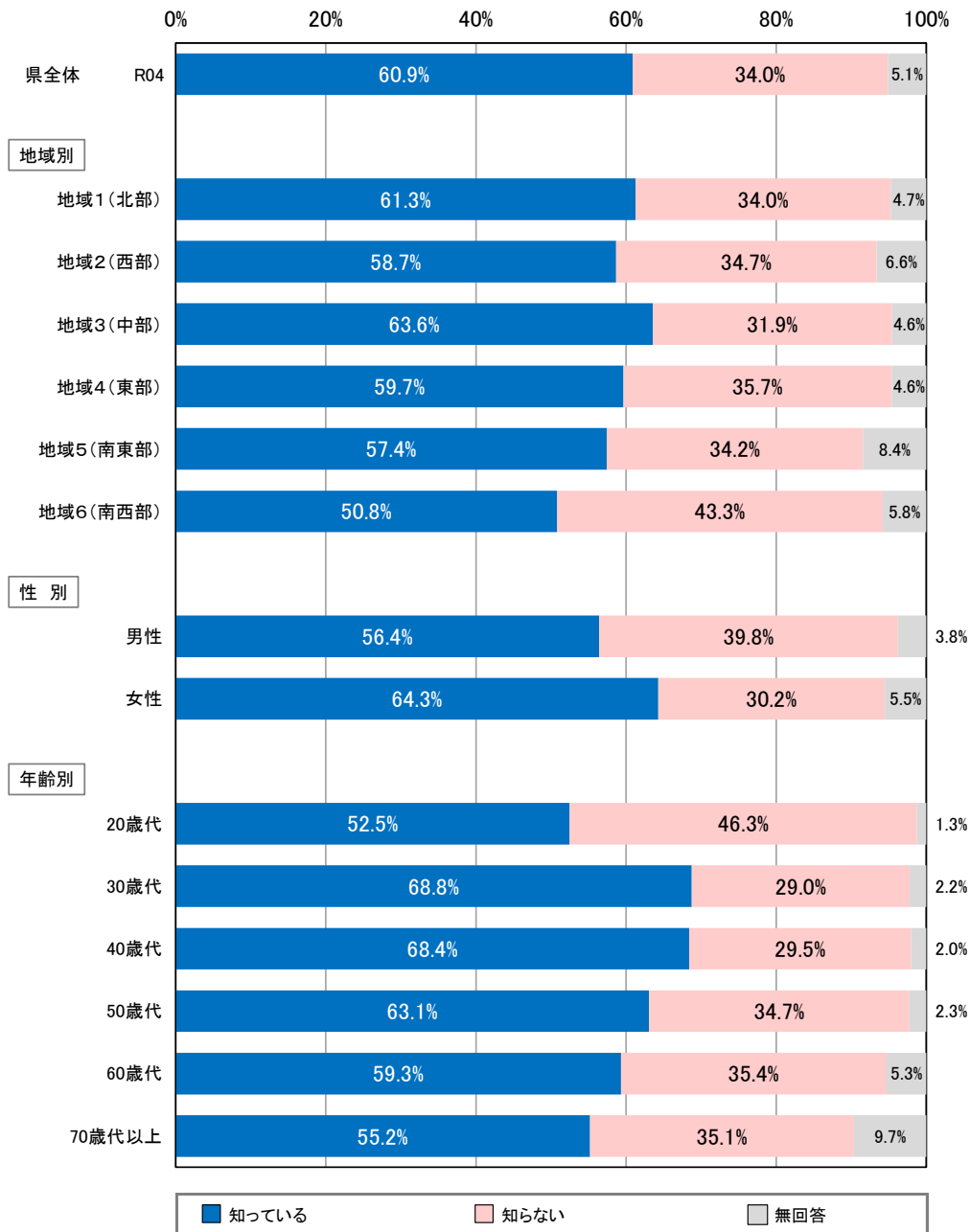
4～11. 県民の生活に関する意識やニーズについて

4. 安全・安心の確保【賑わう「都」をつくる】

(1) 「自転車条例」内容の認知

① 奈良県内では、自転車所有者等は自転車損害賠償責任保険等の加入が義務化されている（問13①）

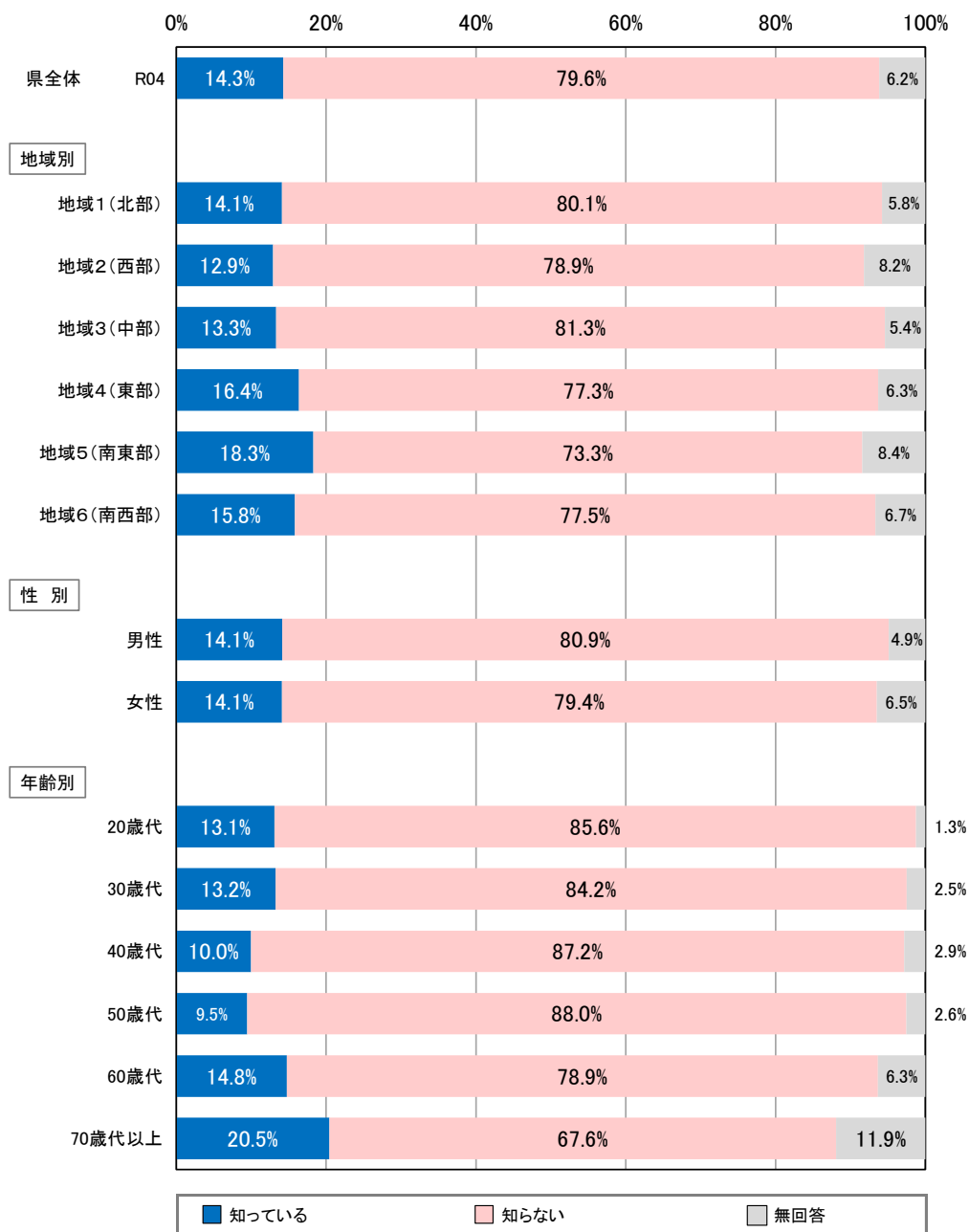
- 「自転車条例」内容の認知をみると、「奈良県内では、自転車所有者等は自転車損害賠償責任保険等の加入が義務化されている」ことを「知っている」人は60.9%、「知らない」人は34.0%となっています。
- 地域別にみると、「知っている」人が最も多いのは『地域3(中部)』(63.6%)で、次いで『地域1(北部)』(61.3%)となっています。一方、『地域6(南西部)』では「知っている」人が50.8%で最も少なくなっています。
- 性別にみると、「知っている」人の割合は、『女性』(64.3%)の方が、『男性』(56.4%)より7.9ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「知っている」人が最も多いのは『30歳代』(68.8%)で、次いで『40歳代』(68.4%)となっています。一方、『20歳代』では、「知っている」人が52.5%で最も少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

②奈良県内では65歳以上の高齢者は自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されている
(問 13②)

- 「奈良県内では65歳以上の高齢者は自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されている」ことを「知っている」人は14.3%、「知らない」人は79.6%となっています。
- 地域別にみると、「知っている」人が最も多いのは『地域5(南東部)』(18.3%)で、次いで「地域4(東部)」(16.4%)となっています。一方、『地域2(西部)』では「知っている」人が12.9%で最も少なくなっています。
- 性別にみると、「知っている人」の割合は、『男性』と『女性』(いずれも14.1%)で同程度となっています。
- 「知っている」人が最も多いのは『70歳代以上』(20.5%)で、次いで『60歳代』(14.8%)となっています。一方、『50歳代』では、「知っている」人の割合は9.5%で最も少なくなっています。



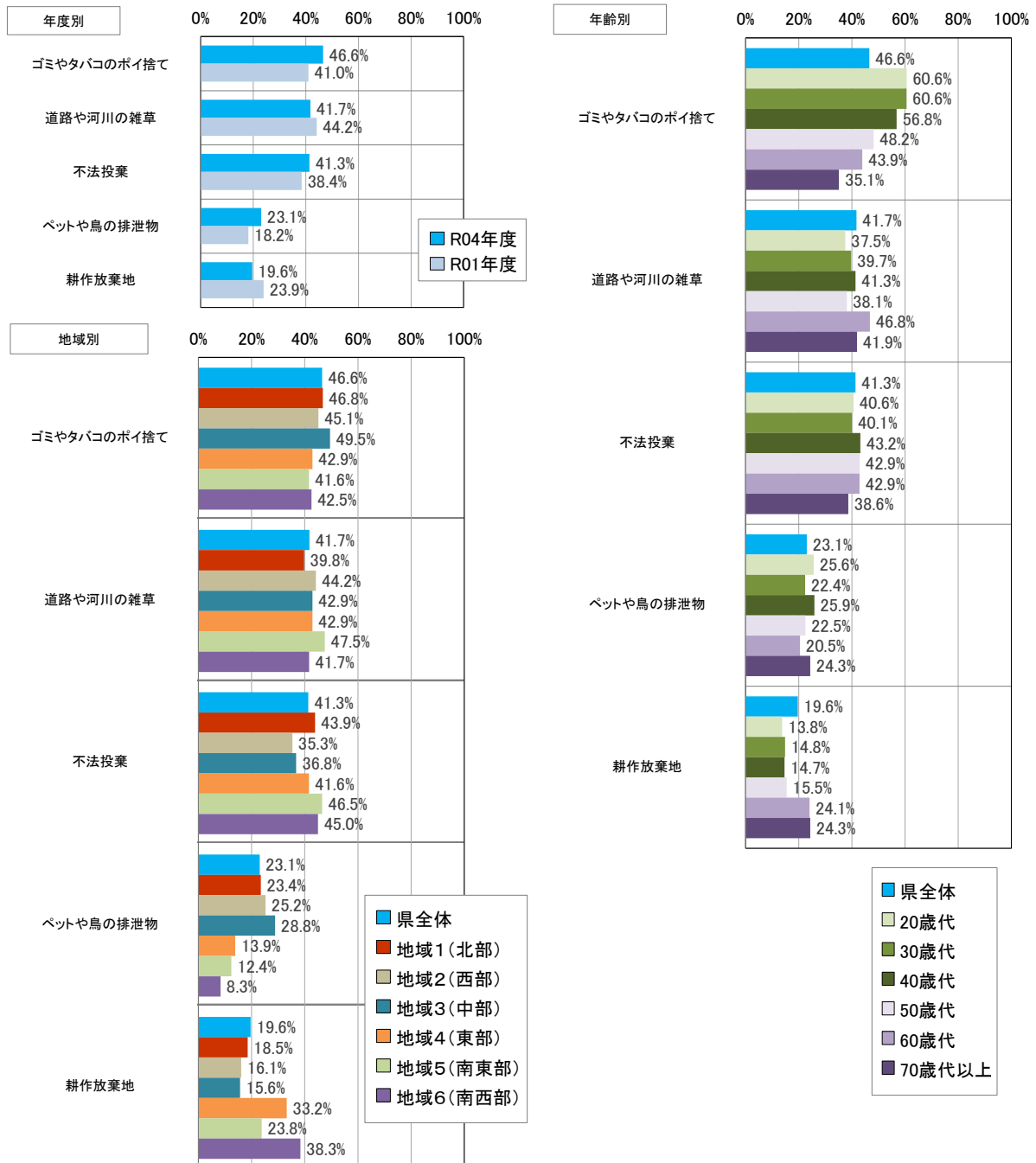
※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

5. 景観・環境の保全【愉しむ「都」をつくる】

(1) 住まいの身近な地域で、景観を損ねていると感じるもの

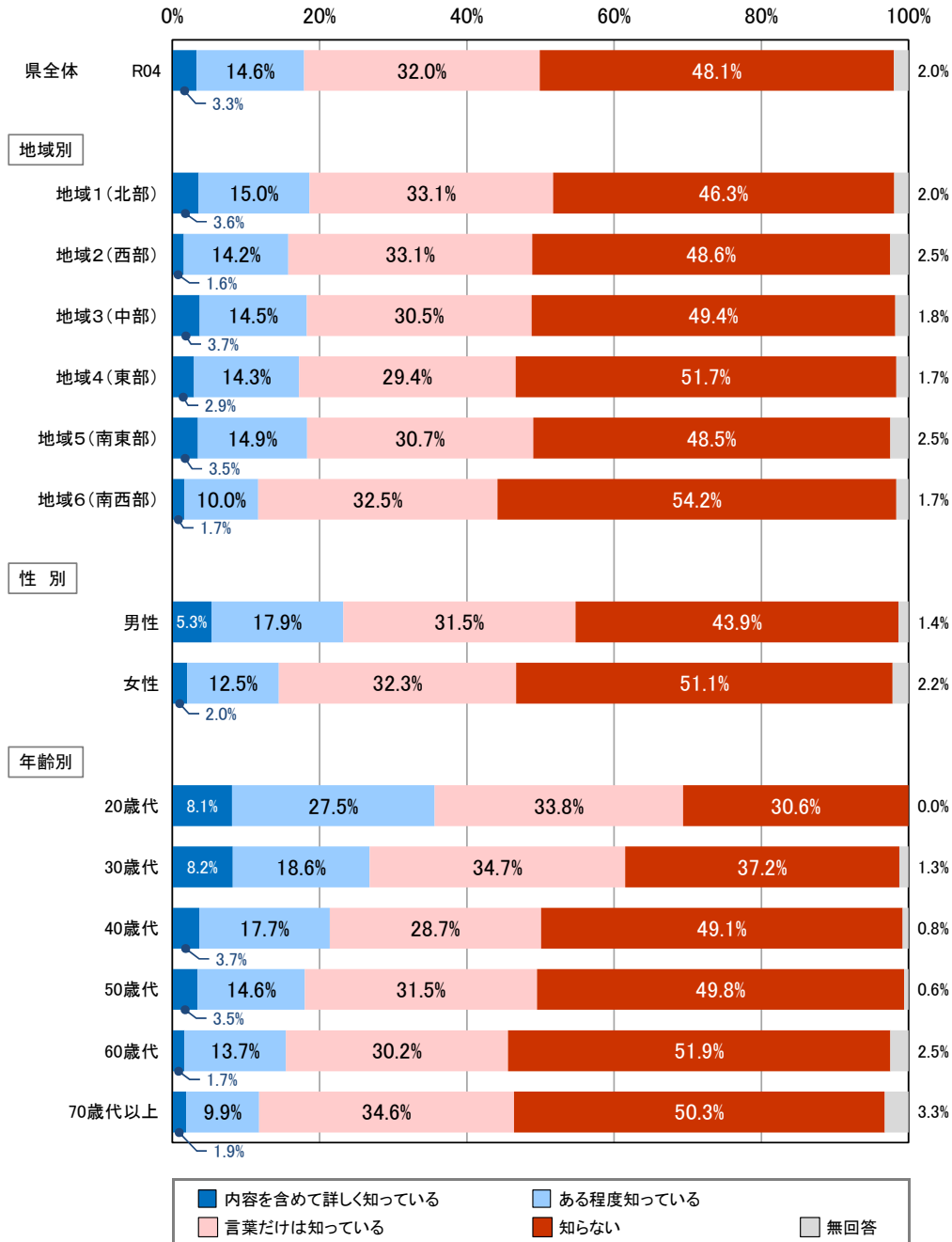
(問 21 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 地域で景観を損ねていると感じるものを尋ねたところ、「ゴミやタバコのポイ捨て」(46.6%)が最も多く、次いで「道路や河川の雑草」(41.7%)、「不法投棄」(41.3%)、「ペットや鳥の排泄物」(23.1%)、「耕作放棄地」(19.6%)となっています。
- 「ゴミやタバコのポイ捨て」と答えた人については、令和元年度と比べると5.6ポイント増加しています。地域別では『地域3(中部)』が最も多く、年齢別では年齢層が下がるほど多くなっています。
- 「道路や河川の雑草」と答えた人については、令和元年度と比べると2.4ポイント減少しています。地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「不法投棄」と答えた人については、令和元年度と比べると2.9ポイント増加しています。地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『40歳代』、『50歳代』、『60歳代』が同程度で多くなっています。
- 「ペットや鳥の排泄物」と答えた人については、令和元年度と比べると4.9ポイント増加しています。地域別では『地域3(中部)』、年齢別では『20歳代』、『40歳代』が同程度で多くなっています。
- 「耕作放棄地」と答えた人については、令和元年度と比べると4.3ポイント減少しています。地域別では『地域6(南西部)』。年齢別では『60歳代』と『70歳代以上』が同程度で多くなっています。



(2) 「生物多様性」という言葉の認知度 (問 22)

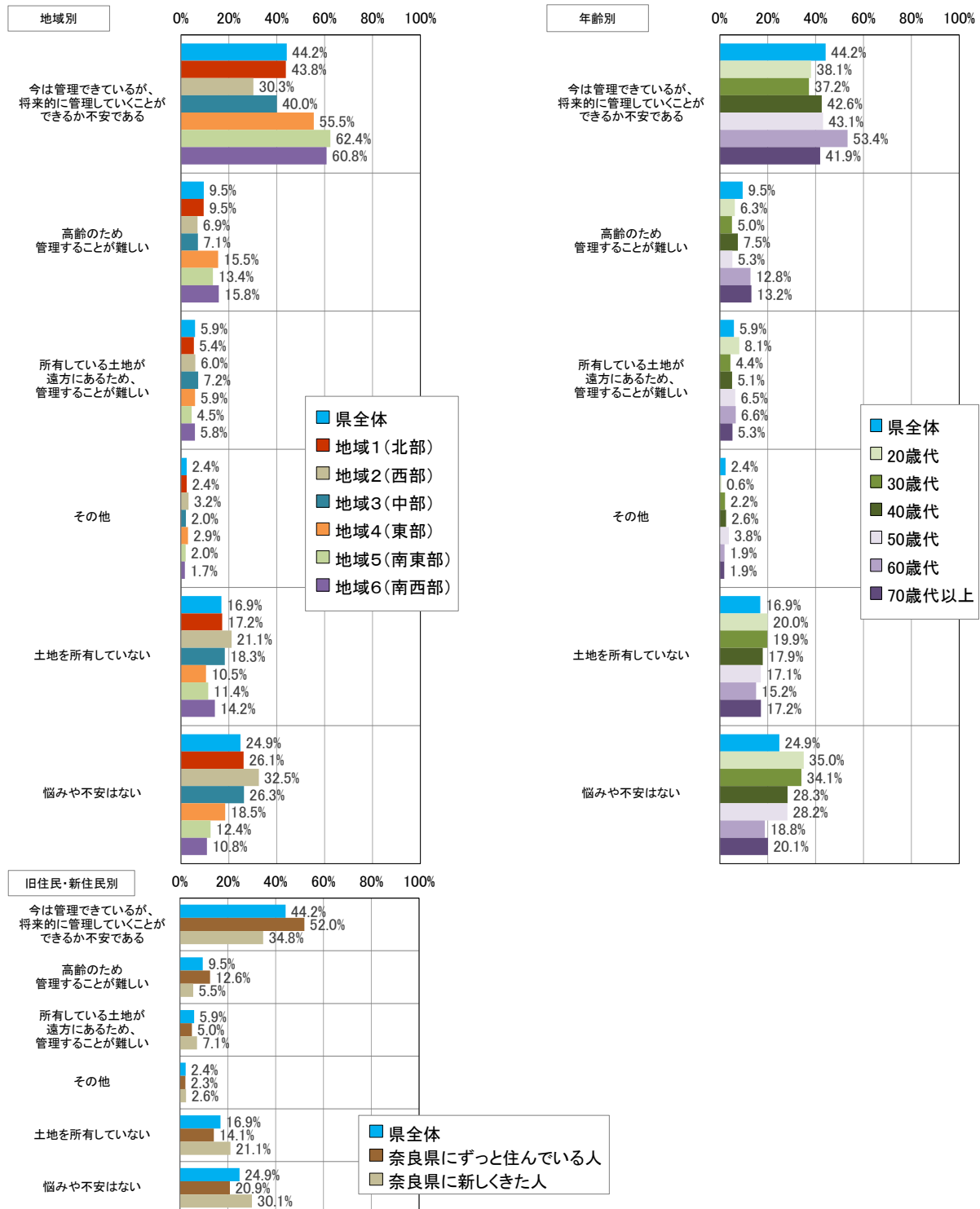
- 「生物多様性」問題の認知度については、「知っている」(「内容を含めて詳しく知っている」+「ある程度知っている」+「言葉だけは知っている」)人は49.9%となっています。
- 地域別にみると、「知っている」人が最も多いのは『地域1(北部)』(51.7%)で、次いで『地域5(南東部)』(49.0%)と『地域2(西部)』(48.9%)と『地域3(中部)』(48.8%)が同程度で多くなっています。一方、『地域6(南西部)』では、「知っている」人の割合は44.2%と最も少なくなっています。
- 性別にみると、「知っている」人の割合は『男性』(54.8%)の方が、『女性』(46.7%)より8.0ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「知っている」人の割合は概ね年齢層が下がるほど多くなっています。



6. 暮らしやすいまちづくり【愉しむ「都」をつくる】

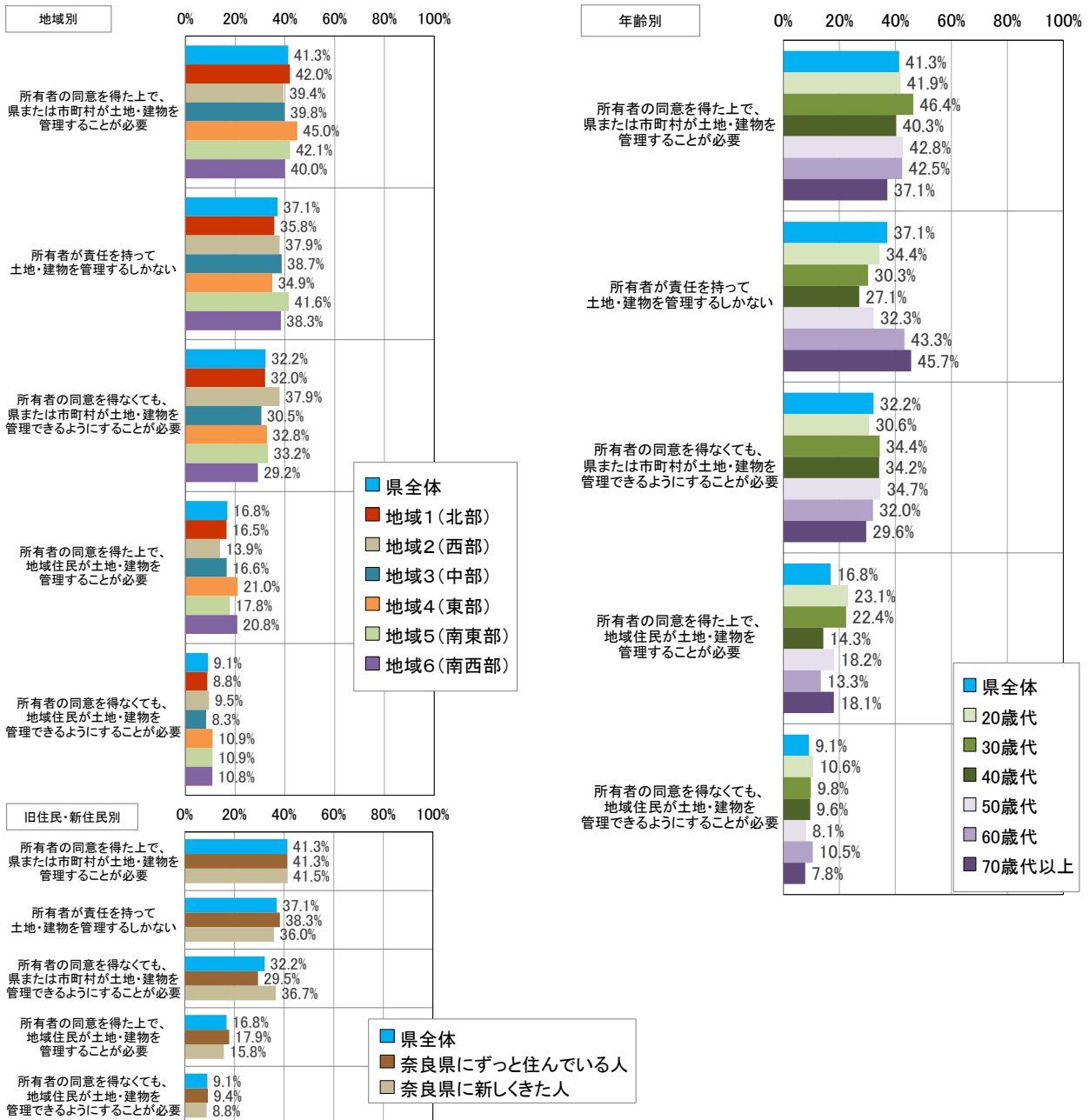
(1) 所有している土地の管理について悩みや不安の有無 (問 24)

- 所有している土地の管理に関する悩みや不安について尋ねたところ、「その他」、「土地を所有していない」、「悩みや不安はない」を除くと「今は管理できているが、将来的に管理していくことができるか不安である」が 44.2%で最も多く、次いで「高齢のため管理することが難しい」(9.5%)、「所有している土地が遠方にあるため、管理することが難しい」(5.9%)となっています。
- 「今は管理できているが、将来的に管理していくことができるか不安である」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「高齢のため管理することが難しい」と答えた人については、地域別では『地域6(南西部)』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「所有している土地が遠方にあるため、管理することが難しい」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。



(3) 周囲に影響を及ぼしている土地・建物の管理方法 (問26)

- 周囲に影響を及ぼしている土地・建物の管理方法について尋ねたところ、「所有者の同意を得た上で、県または市町村が土地・建物を管理することが必要」が41.3%で最も多く、次いで「所有者が責任を持って土地・建物を管理するしかない」(37.1%)、「所有者の同意を得なくても、県または市町村が土地・建物を管理できるようにすることが必要」(32.2%)、「所有者の同意を得た上で、地域住民が土地・建物を管理することが必要」(16.8%)、「所有者の同意を得なくても、地域住民が土地・建物を管理できるようにすることが必要」(9.1%)となっています。
- 「所有者の同意を得た上で、県または市町村が土地・建物を管理することが必要」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』と『奈良県に新しくきた人』が同程度、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「所有者が責任を持って土地・建物を管理するしかない」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「所有者の同意を得なくても、県または市町村が土地・建物を管理できるようにすることが必要」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「所有者の同意を得た上で、地域住民が土地・建物を管理することが必要」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』と『地域6(南西部)』が同程度、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「所有者の同意を得なくても、地域住民が土地・建物を管理できるようにすることが必要」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』、『地域5(南東部)』、『地域6(南西部)』が同程度、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、年齢別では『20歳代』と『60歳代』が同程度で多くなっています。



7. 文化活動【智恵の「都」をつくる】

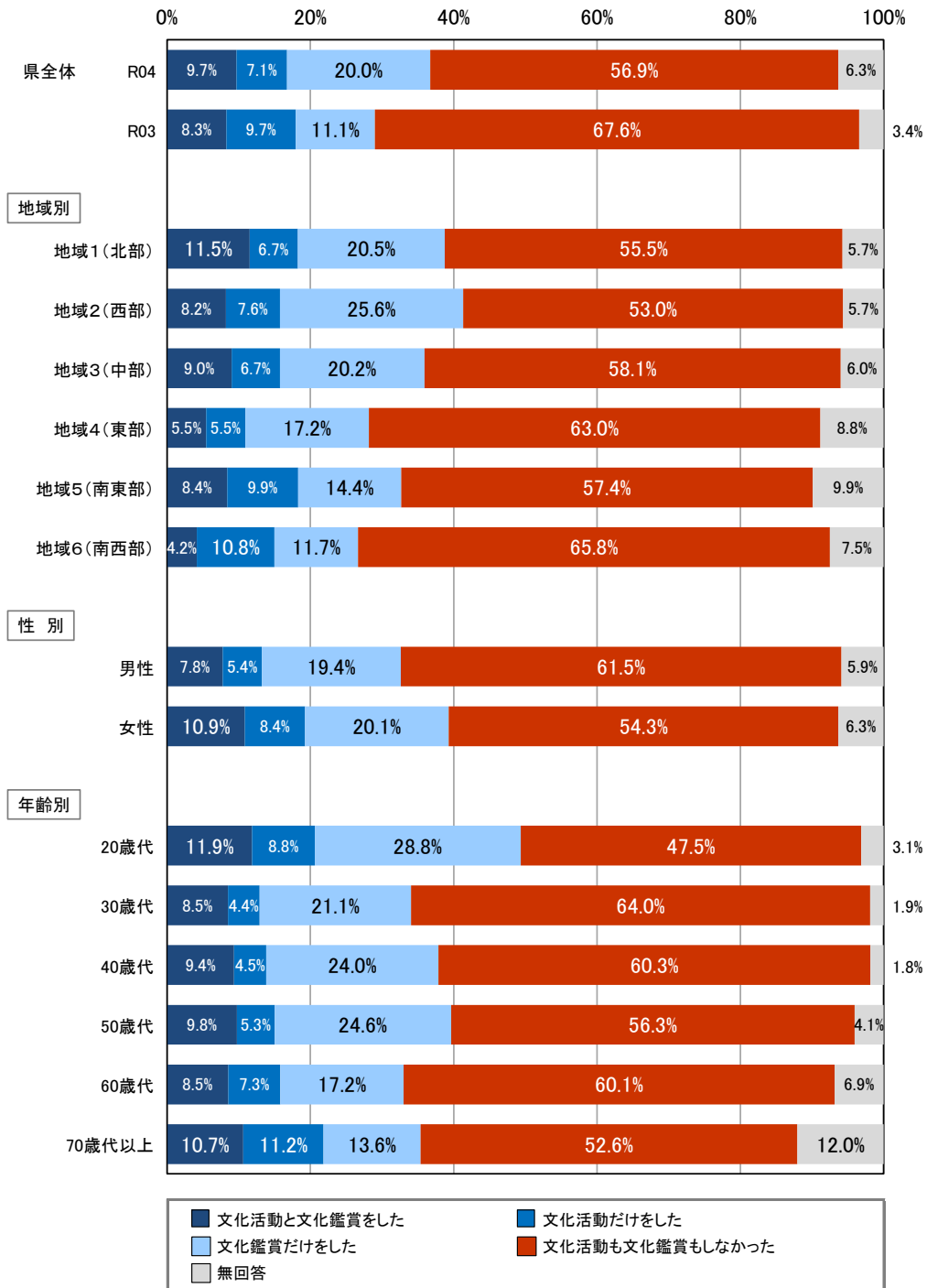
(1) この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無 (問33)

■この1年間の文化活動・文化鑑賞*の有無については、「文化活動または文化鑑賞をした人」(「文化活動と文化鑑賞をした」+「文化活動だけをした」+「文化鑑賞だけをした」)の割合は36.7%で、令和3年度(29.0%)と比べて7.7ポイント増加しています。
 [*「文化活動」とは、習い事や趣味の他、楽器の演奏やダンスなど自ら主体的に行う活動全般をいいます。]
 「文化鑑賞」とは、公演・展覧会など鑑賞全般をいいます。(家庭内での音楽鑑賞等を除きます)

■地域別にみると、「文化活動または文化鑑賞をした」人の割合は、『地域2(西部)』(41.3%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(38.8%)、『地域3(中部)』(35.9%)となっています。一方、『地域4(東部)』(28.2%)、『地域6(南西部)』(26.7%)では3割未満となっています。

■性別にみると、「文化活動または文化鑑賞をした」人の割合は、『女性』(39.3%)の方が、『男性』(32.6%)より6.7ポイント多くなっています。

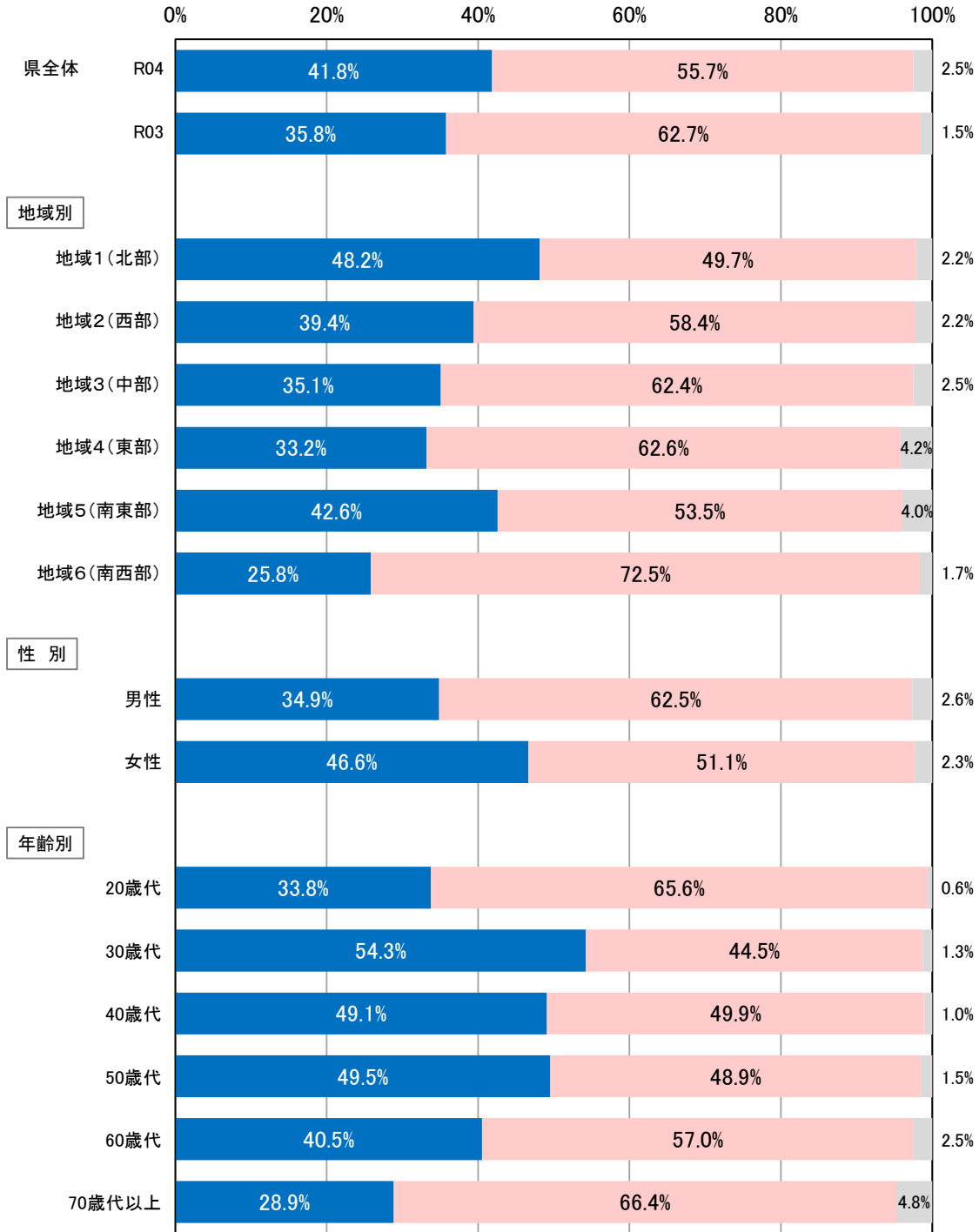
■年齢別にみると、「文化活動または文化鑑賞をした」人の割合は、『20歳代』(49.4%)が最も多く、次いで『50歳代』(39.6%)となっています。一方、「文化活動も文化鑑賞もしなかった」人の割合は『30歳代』(64.0%)が最も多くなっています。



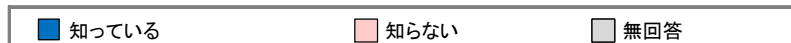
※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 「ムジークフェストなら」の認知度 (問 34)

- 「ムジークフェストなら」の認知度については、「知っている」(「知っていて行ったことがある」+「知っているが、行ったことはない」)人の割合は41.8%となっています。令和3年度と比べると「知っている」は6.0ポイント増加しています。
- 地域別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『地域1(北部)』(48.2%)が最も多くなっています。一方、『地域6(南西部)』(25.8%)では2割台と最も少なくなっています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『女性』(46.6%)の方が『男性』(34.9%)より11.7ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『30歳代』(54.3%)が最も多く、次いで『50歳代』(49.5%)となっています。



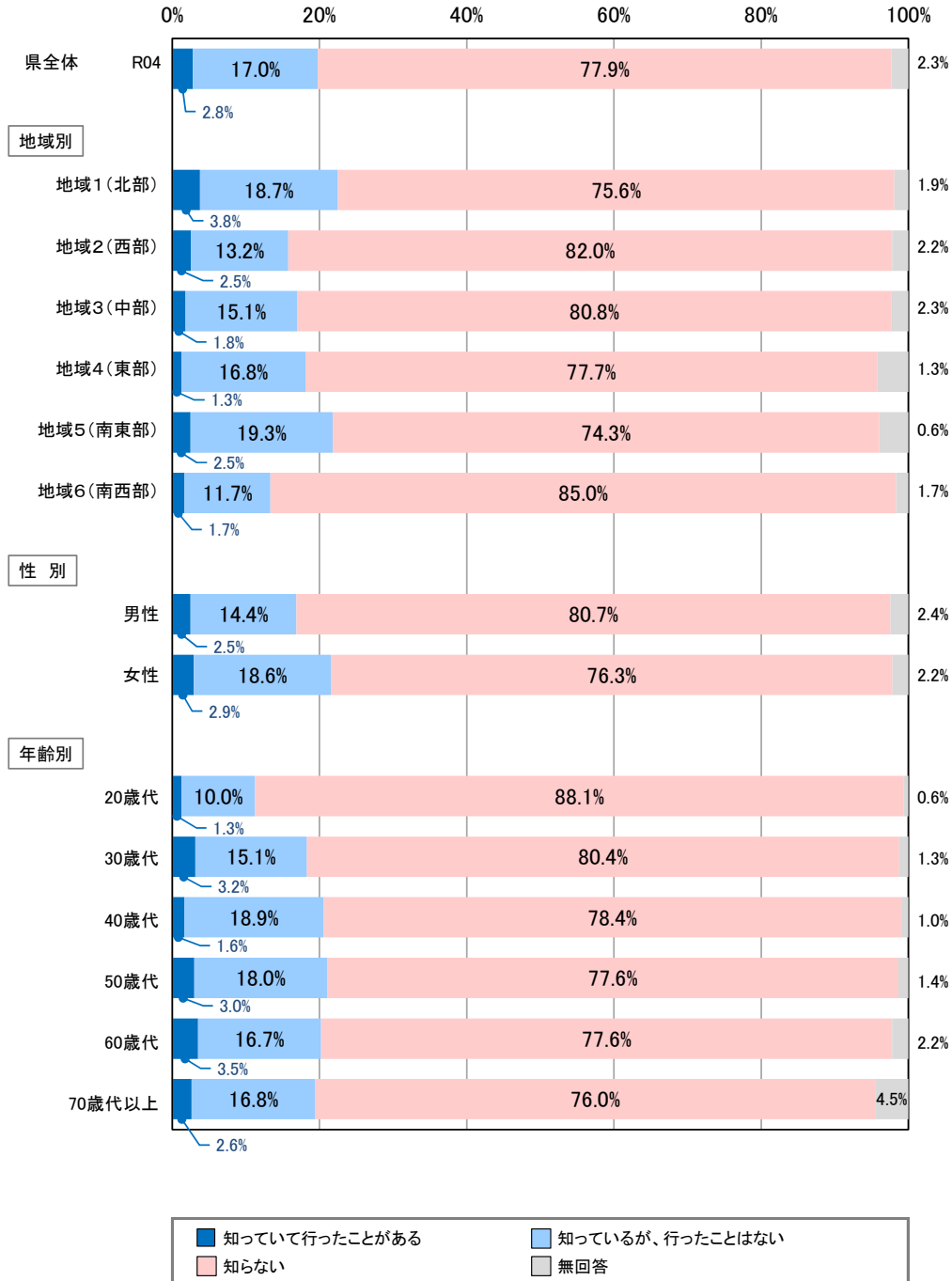
※令和4年度の「知っている」の数値は「知っていて行ったことがある」+「知っているが、行ったことはない」を再集計した結果です。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(3) 「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」の認知度 (問 35)

- 「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」の認知度については、「知っている」(「知っていて行ったことがある」+「知っているが、行ったことはない」)人は19.8%となっています。
- 地域別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『地域1(北部)』(22.5%)が最も多くなっています。一方、『地域6(南西部)』では、13.3%と最も少なくなっています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『女性』(21.6%)の方が『男性』(16.9%)より4.7ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『50歳代』(21.0%)が最も多くなっています。一方、「知らない」と答えた人の割合は、『20歳代』(88.1%)で最も多くなっています。

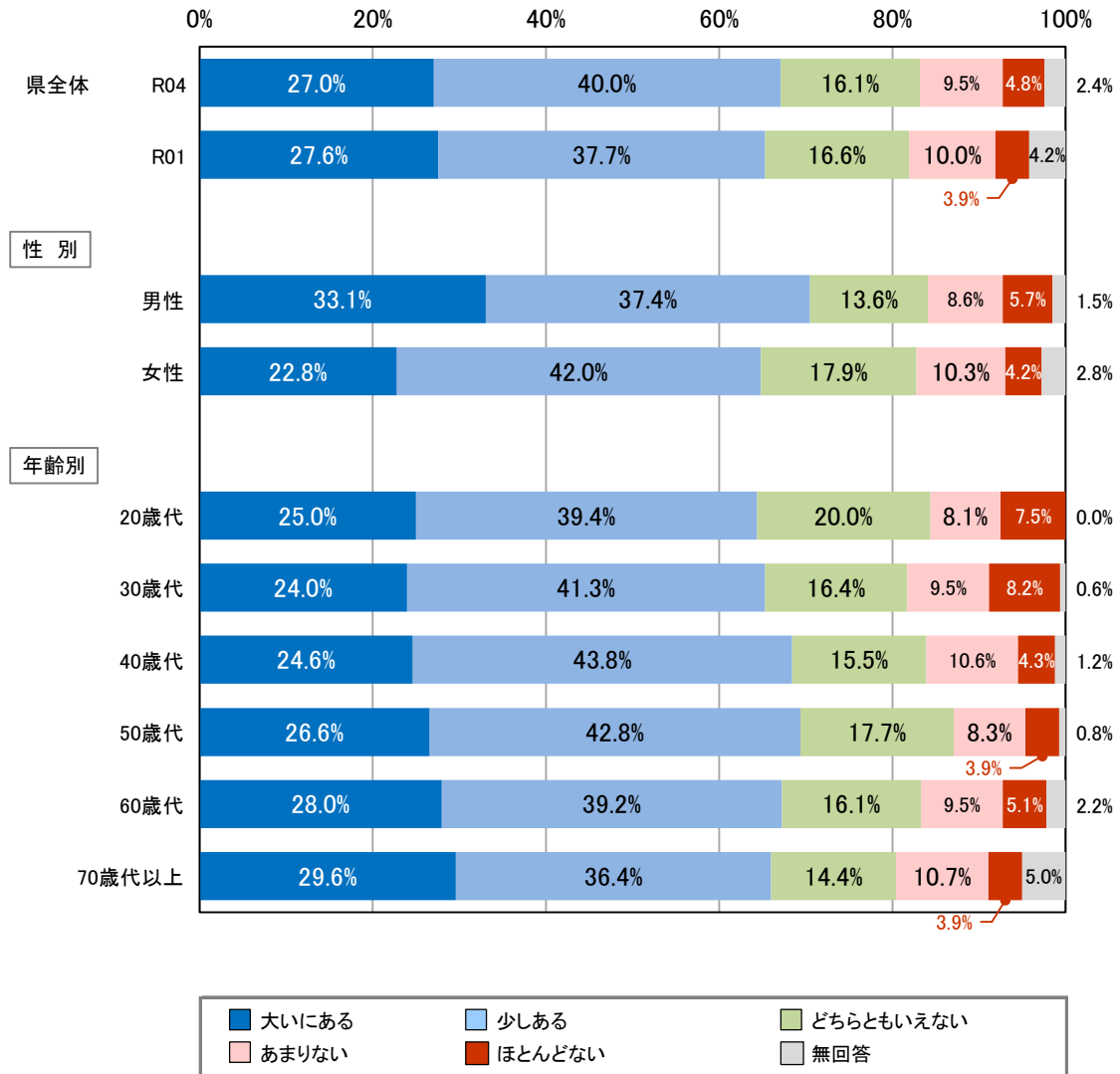


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

8. エネルギー関連【豊かな「都」をつくる】

(1) 「再生可能エネルギー等の利活用」への関心 (問27)

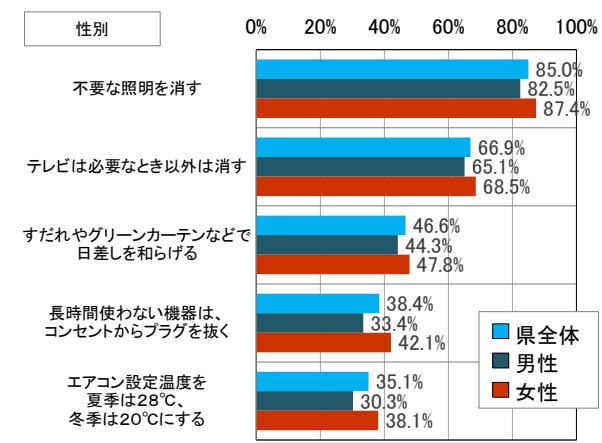
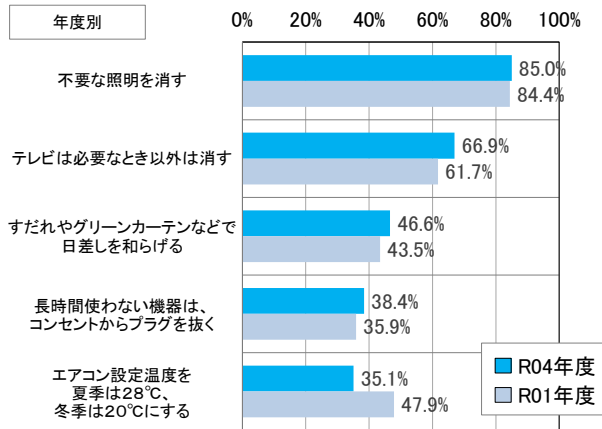
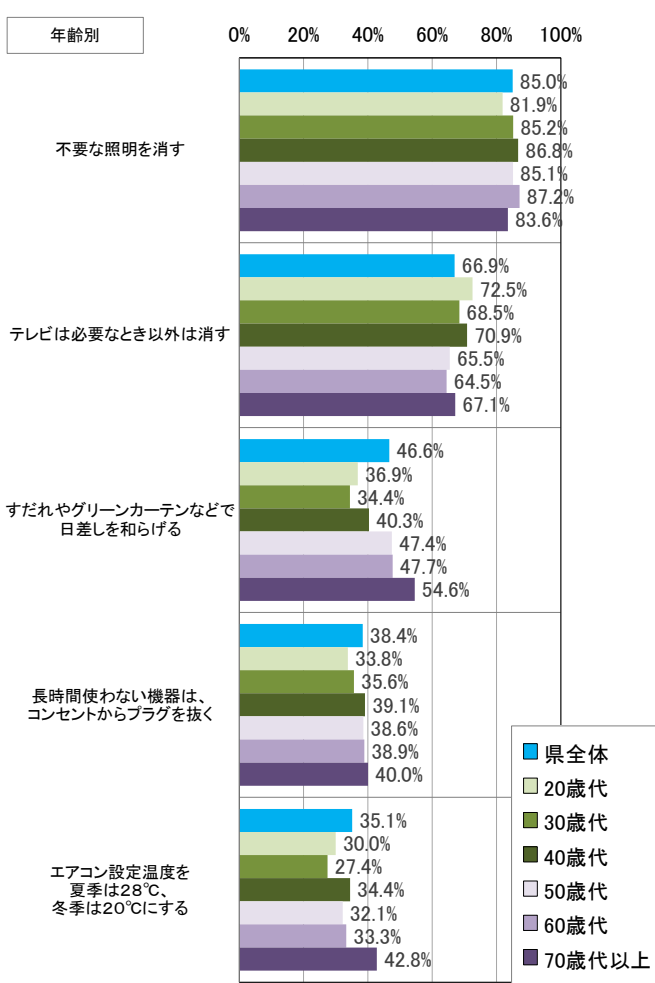
- 再生可能エネルギーに「関心あり」(「大いにある」+「少しある」と答えた人の割合は 67.1%で令和元年度(65.3%)より 1.8 ポイント増加しています。「関心なし」(「ほとんどない」+「あまりない」と答えた人の割合は 14.4%で、令和元年度(13.9%)と比べて 0.5 ポイント増加しています。
- 性別にみると、「関心あり」と答えた人の割合は、『男性』(70.5%)の方が『女性』(64.8%)より 5.7 ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「関心あり」と答えた人の割合は、『50 歳代』(69.4%)が最も多く、次いで『40 歳代』(68.4%)、『60 歳代』(67.2%)となっています。一方、「関心なし」と答えた人の割合は『30 歳代』(17.7%)で最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(5) 省エネ・節電のための、日常的な取り組み（問30 県全体についての上位5項目を掲載）

- 省エネ・節電のための日常的な取組状況を尋ねたところ、「不要な照明を消す」(85.0%)が最も多く、次いで「テレビは必要なおき以外は消す」(66.9%)、「すだれやグリーンカーテンなどで日差しを和らげる」(46.6%)、「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」(38.4%)、「エアコン設定温度を夏季は28℃、冬季は20℃にする」(35.1%)となっています。
- 「不要な照明を消す」と答えた人については、令和元年度と比べると0.6ポイント増加しています。年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「テレビは必要なおき以外は消す」と答えた人については、令和元年度と比べると5.2ポイント増加しています。年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「すだれやグリーンカーテンなどで日差しを和らげる」と答えた人については、令和元年度と比べると3.1ポイント増加しています。年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」と答えた人については、令和元年度と比べると2.5ポイント増加しています。年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「エアコン設定温度を夏季は28℃、冬季は20℃にする」と答えた人については、令和元年度と比べると12.8ポイント減少しています。年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 性別でみると、すべての項目で『女性』が『男性』より多くなっています。



9. 運動の状況【健やかな「都」をつくる】

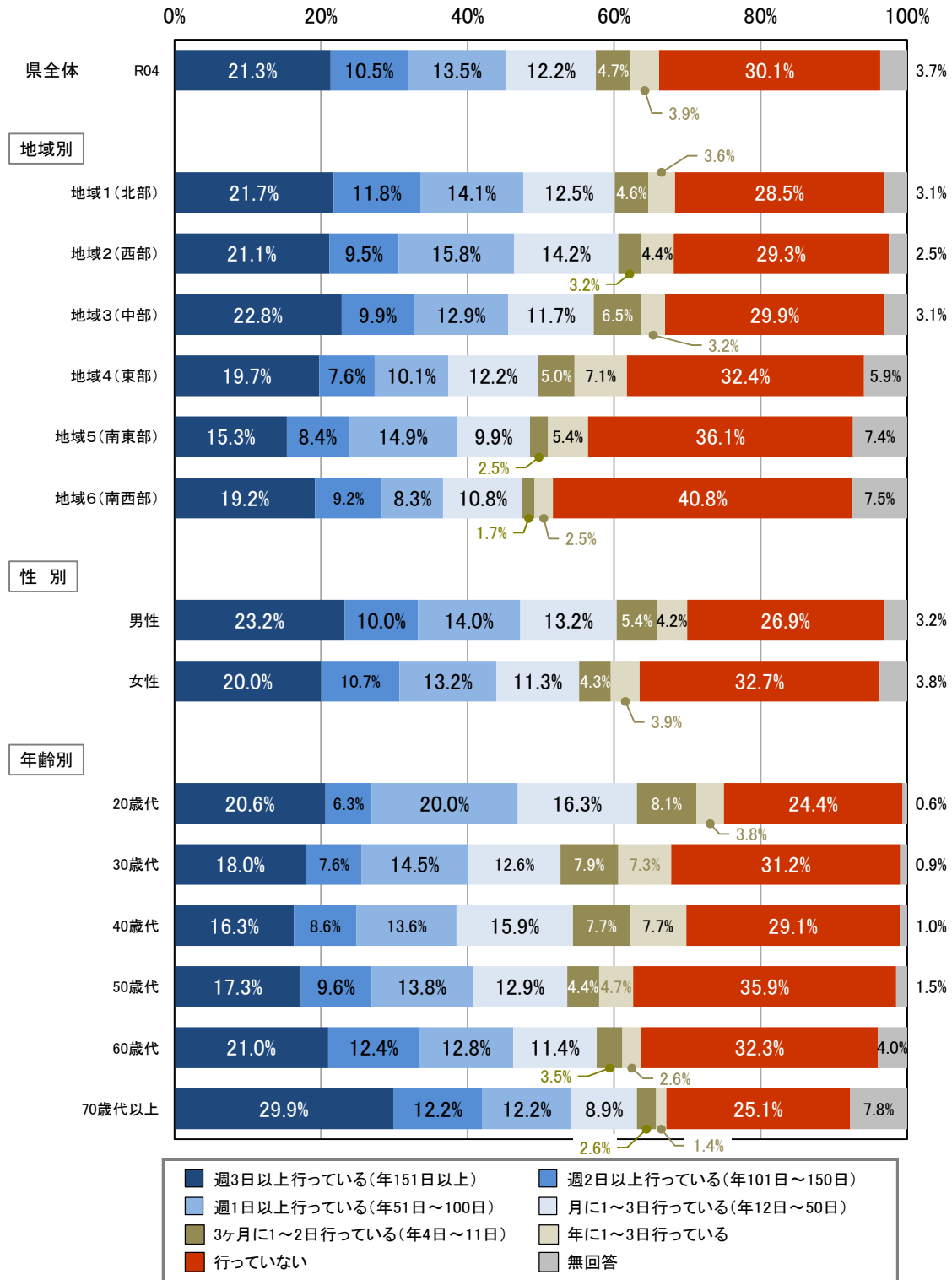
(1) この1年間に運動・スポーツを行った日数 (問31)

■この1年間に運動・スポーツを1日でも行った人の割合(「週3日以上行っている」～「年に1～3日行っている」の合計)は 66.2%でした。一方、「行っていない」と答えた人は 30.1%でした。

■地域別にみると、1日でも行った人の割合は、『地域1(北部)』(68.3%)が最も多く、『地域6(南西部)』(51.7%)が最も少なくなっています。

■性別にみると、1日でも行った人の割合は、『男性』(70.0%)の方が『女性』(63.5%)より 6.5ポイント多くなっています。

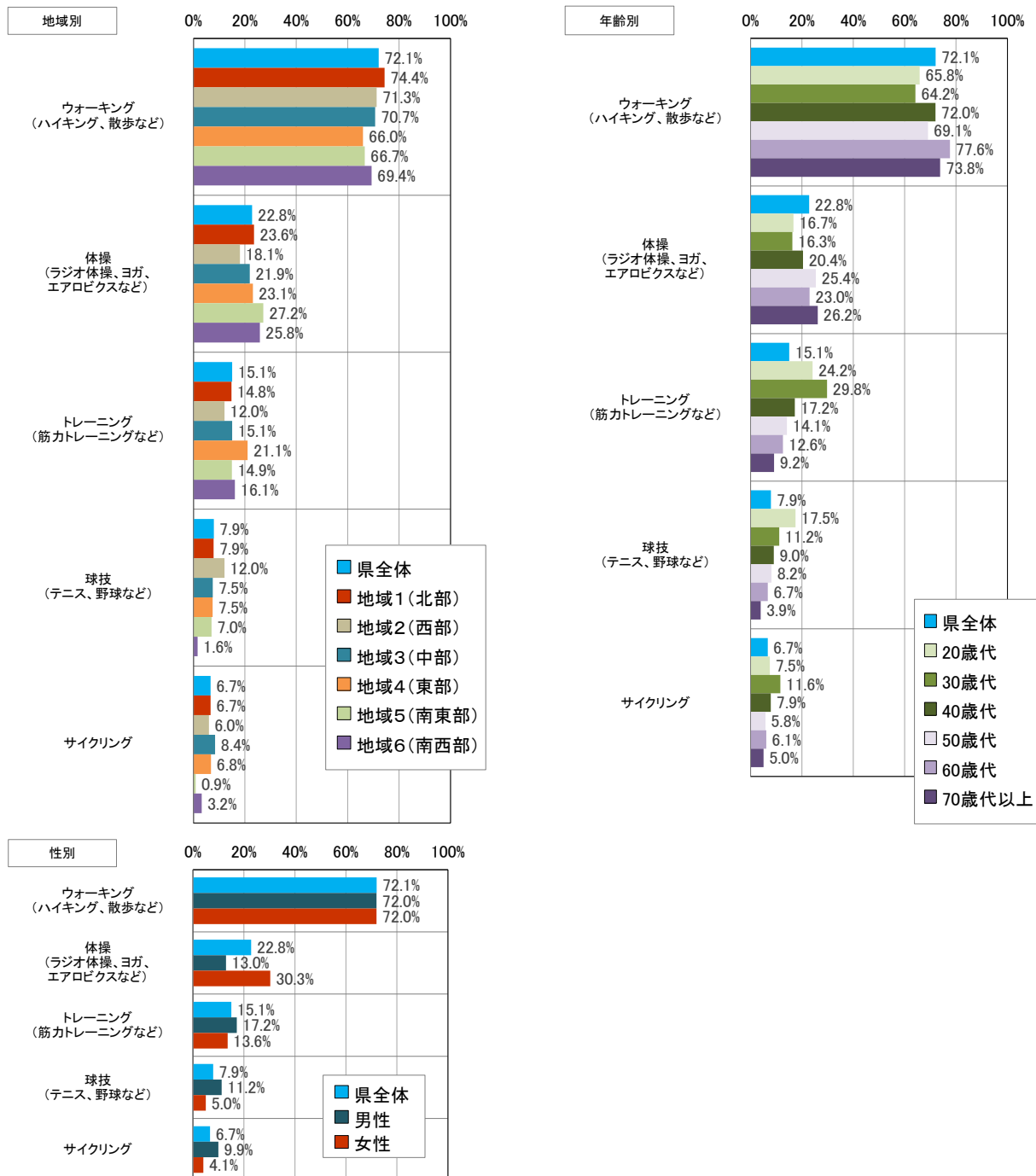
■年齢別にみると、1日でも行った人の割合は、『20歳代』(75.0%)が最も多く、『50歳代』(62.6%)が最も少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 運動実施者の運動の種類 (問 32 県全体についての上位5項目を掲載)

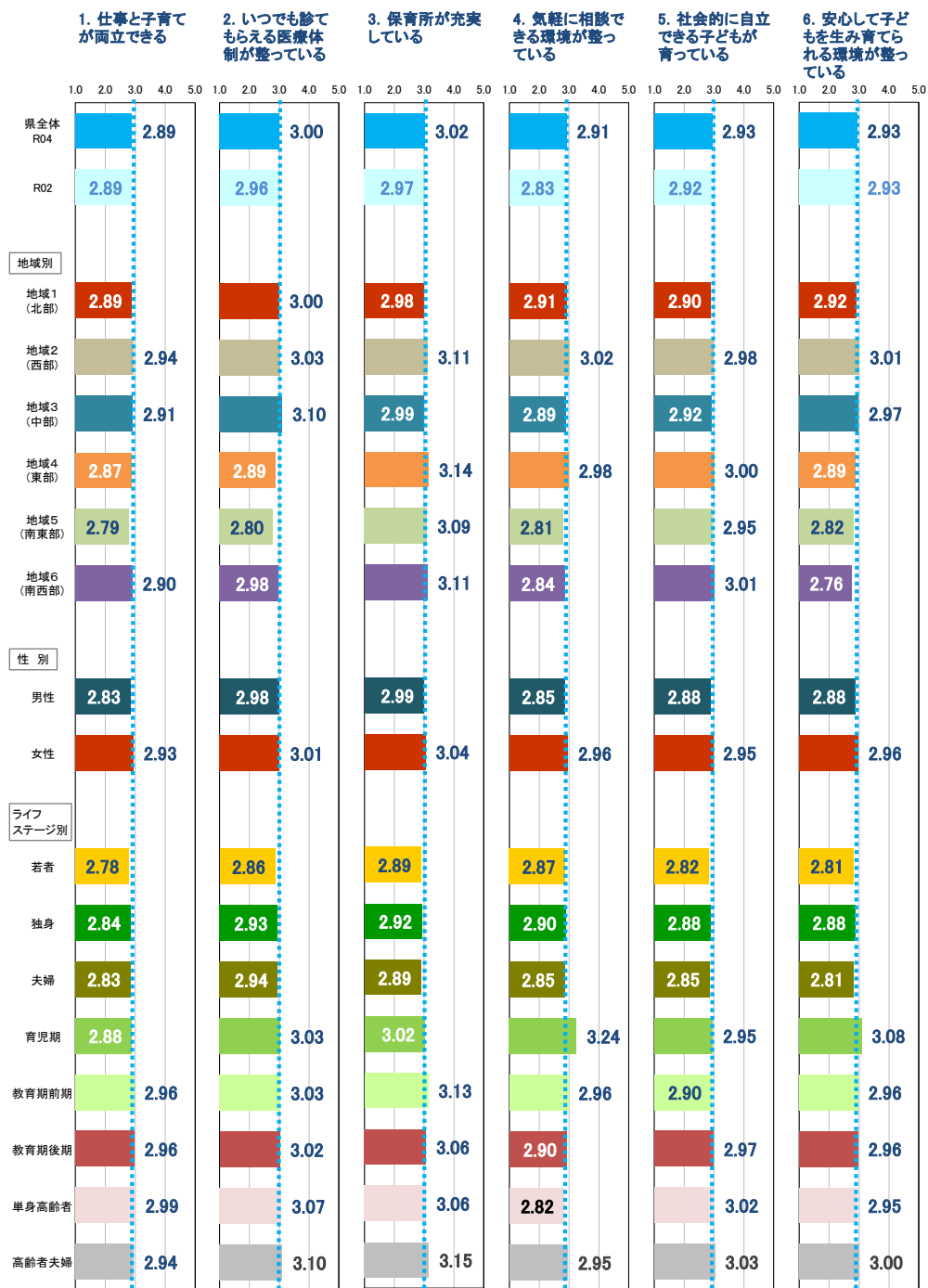
- 運動実施者の運動の種類について尋ねたところ、「その他」を除くと、「ウォーキング」(72.1%)が最も多く、次いで「体操」(22.8%)、「トレーニング」(15.1%)、「球技」(7.9%)、「サイクリング」(6.7%)となっています。
- 「ウォーキング」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。性別では『男性』と『女性』が同程度となっています。年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「体操」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、性別では『女性』が多くなっています。年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「トレーニング」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』、性別では『男性』が多くなっています。年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「球技」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、性別では『男性』が多くなっています。年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「サイクリング」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』、性別では『男性』が多くなっています。年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。



10. 子育て【愉しむ「都」をつくる】

(1) 子育てに関する満足度 (問36)

- 子育てに関する6項目の満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階で評価しました。
- 満足度は、「3. 保育所が充実している」が3.02ポイントで6項目の中で一番高くなっています。
- 令和2年度と比較すると、「6. 安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」を除くすべての項目で満足度が増加しています。
- 地域別にみると、『地域2(西部)』はすべての項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『地域1(北部)』は6項目中5項目で県全体の満足度より低くなっています。
- 性別にみると、『女性』はすべての項目で県全体の満足度より高くなっています。
- ライフステージ別にみると、『高齢者夫婦』は6項目すべて、『教育期前期』、『教育期後期』、『単身高齢者』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『若者』、『独身』、『夫婦』はすべての項目で県全体の満足度より低くなっています。

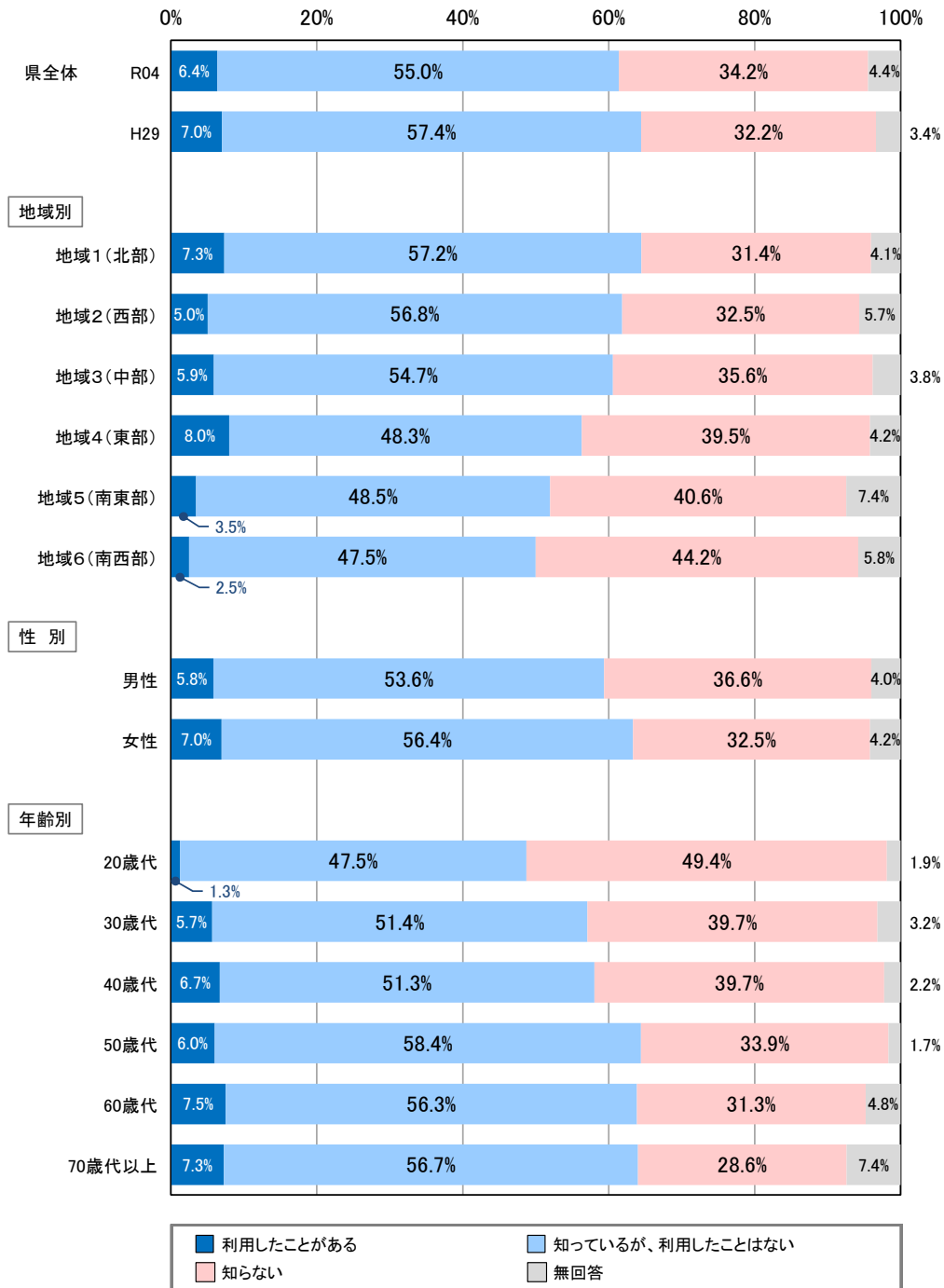


※棒グラフの外側に示した数値は、令和2年度の県全体よりも高いもの。.....は、令和4年度の県全体の値。
 ※グラフ上の数値は小数点第2位までの記載となっておりますが、県全体の値との比較にあたっては、
 小数点第2位以下の数値まで考慮してラベル位置や上部コメント欄の記載に反映しています。

11. 安全・安心の確保

(1) 消費生活センター等の消費生活相談窓口の認知度 (問18)

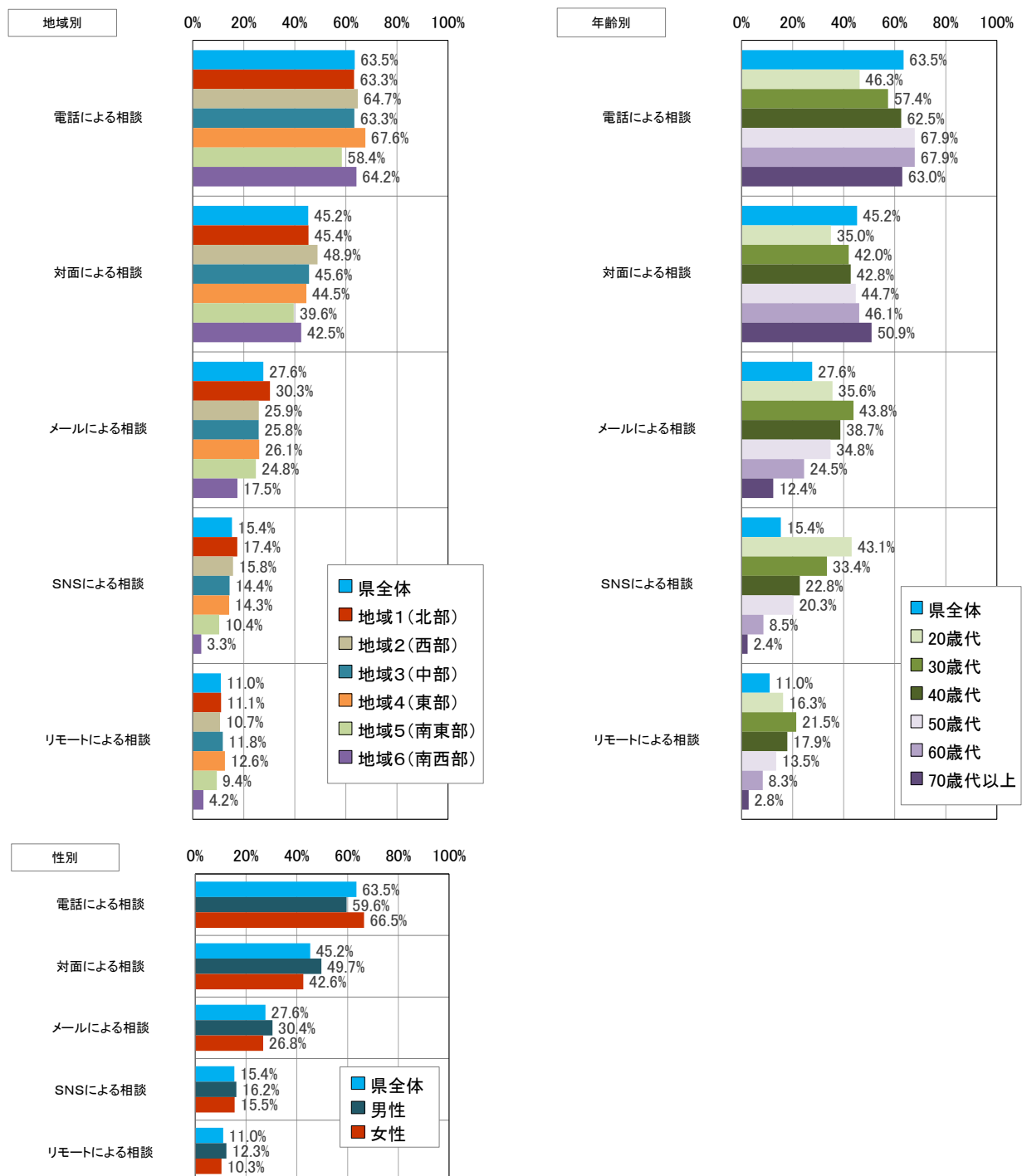
- 消費生活センター等の消費生活相談窓口を「知っている」人の割合は 6.4%、「知っている」(「利用したことがある」+「知っているが、利用したことはない」)人の割合は 61.4%で、平成 29 年度(64.4%)と比べて 3.0 ポイント減少しています。
- 地域別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『地域 1(北部)』(64.5%)が最も多くなっています。一方、『地域6(南西部)』では 50.0%と、最も少なくなっています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『女性』(63.3%)の方が『男性』(59.4%)より 3.9 ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『50 歳代』(64.4%)が最も多く、次いで『70 歳代以上』(64.0%)、『60 歳代』(63.9%)が同程度となっています。一方、『20 歳代』(48.8%)では4割台と最も少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

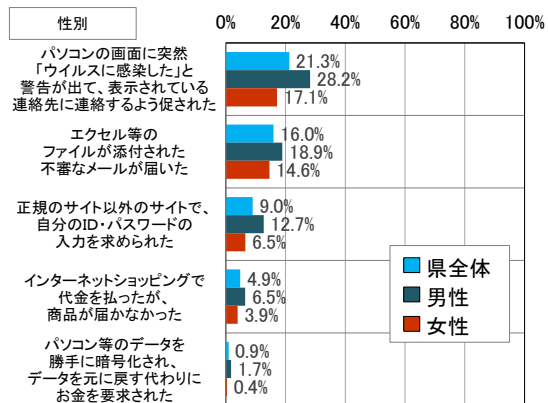
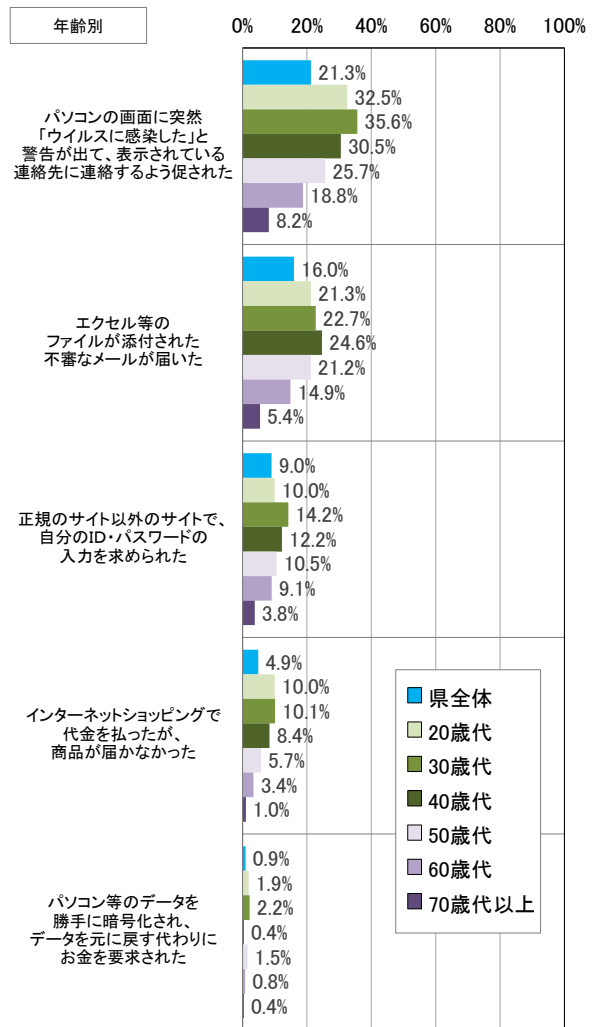
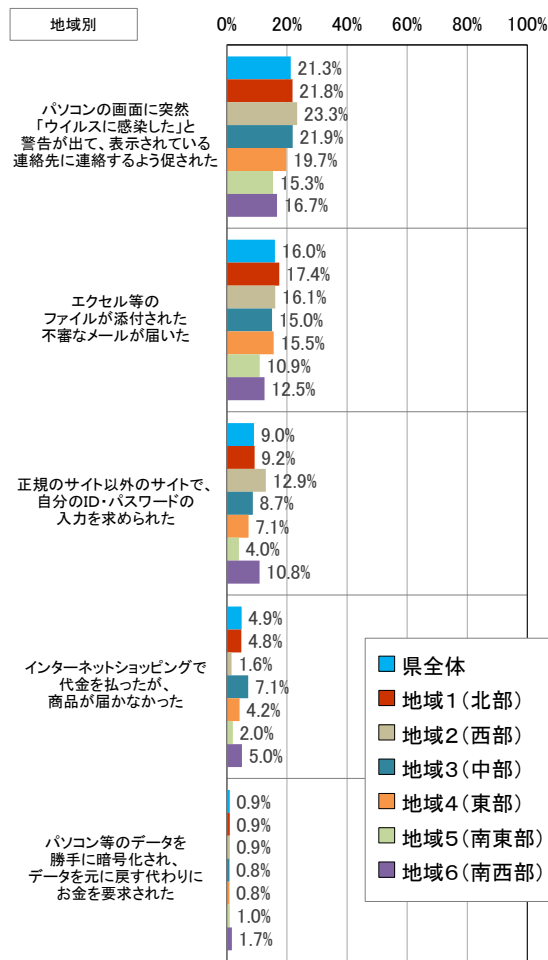
(2) 消費生活センター等の消費生活相談窓口の相談方法 (問19)

- 消費生活センター等の消費生活相談窓口の相談方法について尋ねたところ、「電話による相談」(63.5%)が最も多く、次いで「対面による相談」(45.2%)、「メールによる相談」(27.6%)、「SNSによる相談」(15.4%)、「リモートによる相談」(11.0%)となっています。
- 「電話による相談」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』が最も多くなっています。性別では『女性』が『男性』より多く、年齢別では『50歳代』と『60歳代』が同程度で多くなっています。
- 「対面による相談」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多くなっています。性別では『男性』が『女性』より多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「メールによる相談」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。性別では『男性』が『女性』より多く、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「SNSによる相談」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。性別では『男性』が『女性』より多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「リモートによる相談」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』が最も多くなっています。性別では『男性』が『女性』より多く、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。



(3) インターネット等の利用での経験 (問20)

- インターネット等の利用での経験について尋ねたところ、「その他」を除くと、「パソコンの画面に突然「ウイルスに感染した」と警告が出て、表示されている連絡先に連絡するよう促された」(21.3%)が最も多く、次いで「エクセル等のファイルが添付された不審なメールが届いた」(16.0%)、「正規のサイト以外のサイトで、自分のID・パスワードの入力を求められた」(9.0%)、「インターネットショッピングで代金を払ったが、商品が届かなかった」(4.9%)、「パソコン等のデータを勝手に暗号化され、データを元に戻す代わりにお金を要求された」(0.9%)となっています。
- 「パソコンの画面に突然「ウイルスに感染した」と警告が出て、表示されている連絡先に連絡するよう促された」、「正規のサイト以外のサイトで、自分のID・パスワードの入力を求められた」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多くなっています。性別では『男性』が『女性』より多く、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「エクセル等のファイルが添付された不審なメールが届いた」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。性別では『男性』が『女性』より多く、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「インターネットショッピングで代金を払ったが、商品が届かなかった」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』が最も多くなっています。性別では『男性』が『女性』より多く、年齢別では『20歳代』と『30歳代』が同程度で多くなっています。



12. 回答者に関すること

(1) 奈良での居住理由 (問 45 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

■奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(39.7%)が最も多く、次いで「結婚したから」(25.1%)、「家を継ぐため」(18.3%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(16.6%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(7.0%)となっています。

■令和3年度と比較すると、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」と「家を継ぐため」がどちらも2.6ポイント減少しています。

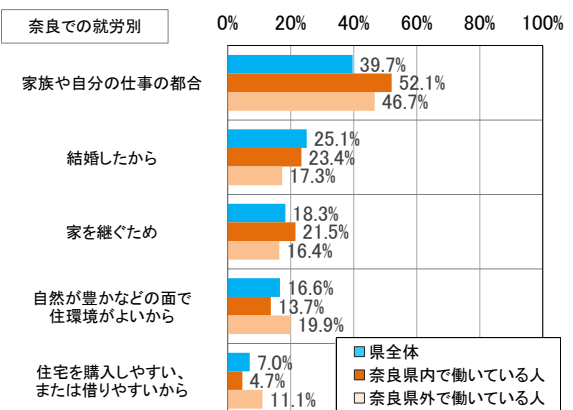
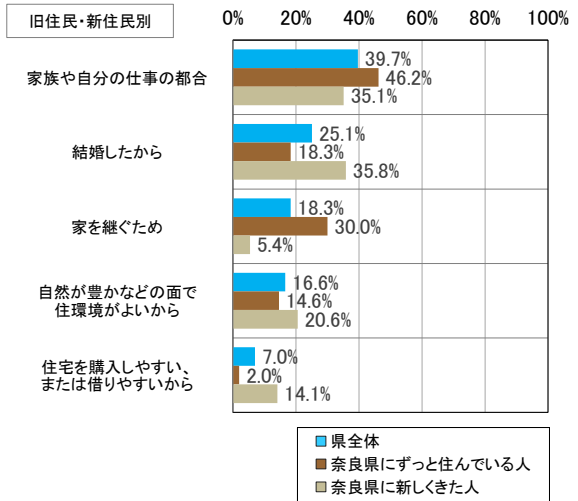
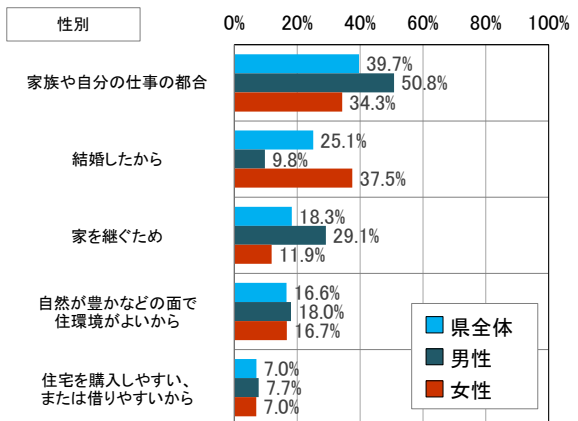
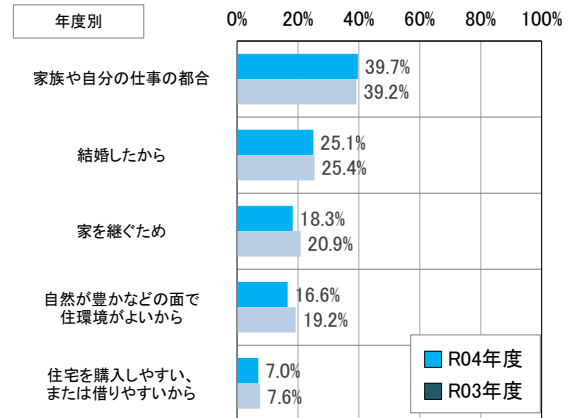
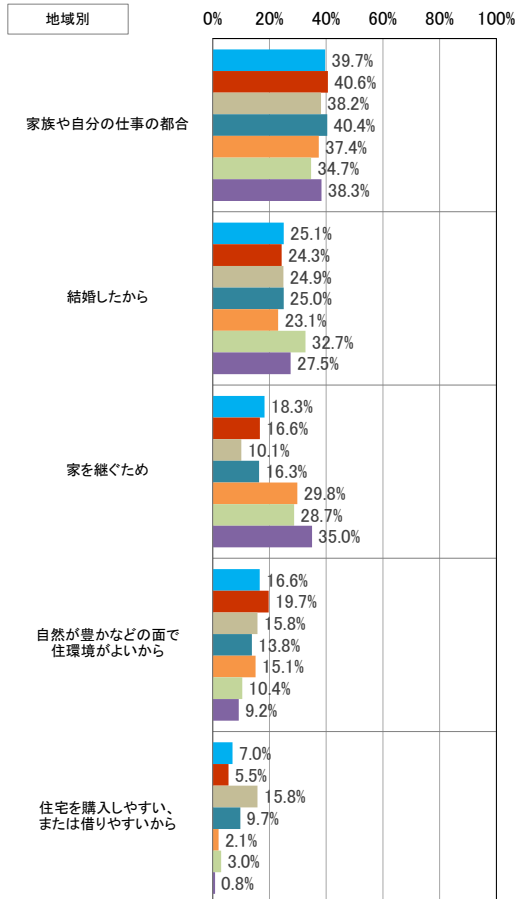
■「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」と答えた人は、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。

■「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



令和4年度
県民アンケート調査
報告書
<概要版>

令和4年12月

奈良県総務部知事公室統計分析課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8473
